

令和元年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	大聖寺地区こころまちセンター 大聖寺なでしこの家
施設管理者	上出 裕美子
事業責任者	森山 悠莉乃
ランチ設置年月	平成27年10月

目指す姿	慈豊会の理念「和顔愛語」のもと、大聖寺地区こころまちセンターとしてランチ・コーディネーターの役割をしっかりと自覚して身近な相談窓口としての事業所をめざす。 地域住民から気軽に相談できる事業所、信頼できる事業所でありたい。 助け合い支え合うことの重要性、繋がりやの輪の大切さを広めて住みやすい町づくりを目指す。
------	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	・ランチ活動で、地域の抱えている問題を運営推進会議で発信し、参加者の意見を聞いていく。また、事業所に来ているかがやき予防塾修了生やサークルのお世話役さんにも、大聖寺に住んでいる課題や「あったらいいな」という意見を聞く。それらの意見を「大聖寺仕合せ座談会」でもフィードバックし、大聖寺の課題整理に繋げていく。	・男性参加を考慮したイベントについて「しあわせ座談会」で話し合いを重ね10月5日ウォーキング・ちよい飲みを企画「第1回しあわせ交流会」を開催した。開催準備では民生委員定例会まちづくり、区長会長、地区社協、大聖寺老人会等の各種団体、リーダーに挨拶、イベントの主旨等を説明し、賛同頂き実現する事が出来た。ランチで知り合った一人暮らしの男性をお誘いしたところ「同級生と久しぶりに会いお酒を交わし話ができた」と大変喜んでおられた。	・第2回しあわせ交流会では馴染みのお寺を貸して頂き、交流会を開催することが出来た。参加者の方からお寺は落ち着くわとの声も聞かれた。前回より男性参加者や民生委員の協力してくれる方が増えた。 ・地域住民や民生委員の方々から直に相談が増えており、大聖寺地区高齢者こころまちセンターなでしこの家の存在も知って頂けると感じる。	・いつも前向きに色々な事に積極的に取り組んでいる。しあわせ交流会では色々な視点からの開催場所や内容がいいなと思っている。3月に開催した場所が、高齢者にとってお寺は昔からなじみのある場所でも男性の参加が多かったのだと思う。広報や新聞でも取り上げられて、周知も広がっているように思うので今後もさらに充実していけばよい。この取り組みはこのまま続けていったら良いと思う。せっかくの交流会コロナで外出自粛ですが繋がりを大事にしたいので、絵手紙、携帯、スマホでも笑いとほっと気持の心を繋げられたらいい。近所や地域の方との交流で絆を深めることが末永く元気で暮らせるという大切さをランチ活動で学びました。	・しあわせ交流会の周知や参加を促していくために地域の方と共に積極的に広報していく。 ・相談業務で不明なことがあれば必ず確認し、迅速に対応していく。 ・知り得た知識や新しい情報は職員間で共有しランチミーティングでも意見交換しながらスキルアップを図る。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	・サークルへ参加した時の相談や民生委員からの相談内容をまとめ、「大聖寺仕合せ座談会」にも活かしていく。	・サークル見学の際や日々の相談業務の内容集計から男性の参加が少ない現状を把握し、男性が集まる居場所が無い事が地区の課題と捉え、しあわせ座談会で話し合い、運営推進会議に発信し実現した。この結果を振り返り今後どのような形で継続していくか仕合わせ座談会や運営推進会議等で地域の方の声から話し合いを継続していきたい。	・しあわせ交流会継続に向けて座談会にはまちづくりの会長さんや区長会長さんにも参加頂いた。地区の課題や交流会についてご賛同頂き、意見交換することが出来た。また、大聖寺で活躍されている方も紹介して頂き、協力してくれる方も増えてきている。	・しあわせ座談会で、まちづくり会長より企画や計画書があればまちづくりとして予算を付けるかどうか議題にかけられることができる。 ・高齢者学級も男性が少なく困っている。しあわせ交流会とコラボしてもいいと思う。高齢者学級の代表も紹介して頂いた。 ・広報の方法も具体的にするためには、心配な方をリストアップし、直接声掛けをしてはどうか。実施後は参加者の意見を活かすことも大事である。	・民生委員の集いや、仕合わせ座談会、交流会運営推進会議では地域の方々の意見を聞きながら地域の課題である男性の出場所が少ないことや、男性が集いや様々なイベントに参加が少ないことに対して一緒に取り組んでいく。 ・同じように男性参加者が減少している高齢者学級の人から直接意見をいただき一緒に考える機会を作る。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	・見守り座談会には継続して参加して行くことで、民生委員や区長、まちづくりの方々と顔の見える関係作りを行なっていく。顔を知ってもらうことで、相談しやすい関係になる。	・見守り座談会には3日間参加し大聖寺地区の民生委員児童委員、福祉協力員の方々と、一人暮らしや高齢者世帯等の見守りネットワーク、避難行動要支援者の情報交換を行った。医療機関からは退院直後の不安ある高齢者の相談を受け入浴に関しては、事業所のお風呂を開放していることを伝え安心してもらう事が出来た。 ・「にこにこ錦城塾会議」を開き、協力員さんランチ職員、篤豊会スタッフと話し合い、利用者さんが楽しめる様それぞれの役割を再確認した。	・ランチで関わりのある方で退院後は在宅という強い要望があり、医療機関と情報を共有しながら対応し、退院後は自宅へ戻ることが出来た。近所の方にも退院されたことを報告して今後の事もお願いしに挨拶に伺った。 ・民生委員の方からの相談に対しては訪問後の状態や生活状況を報告している。	・コロナで不安の増す中、民生委員が一人暮らしや心配な方のところに訪問しているのをよく見かける。ランチ活動でも急務な相談があるときは出向かざるをえないときがあると思われるが、こんな時こそ日頃からの関係者との情報共有ネットワーク構築が大事である。個人情報の取り扱いは難しいと思うが情報を共有し、対応していく。 ・地域と施設が取り組む自然災害に向けた防災についても色々教えてもらい連携の重要性や大切さを学び参考になった。民生委員としても各人宅に行ったときに感じたことは、なでしこに連絡し相談していく。入退院時に民生委員に連絡してもらえると助かる。 ・地域の民生委員、福祉協力員、見守りボランティアの方々と一緒にひとり暮らしや高齢者家族を訪問し生活状況を聞いて福祉弁当や掃除など色々な支援があることを伝える。	・相談が民生委員の方や地域住民の方、または医療機関からの時は、訪問時の健康状態や生活状況については今後もタイムリーに報告していく。 ・ランチと相談者がお互いに情報を共有しながら連携を密にして関係を築く。またそのつながりを軒下マップに記入し、その軒下マップの情報を事業所内のミーティングで共有していく。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	・各サークルとも男性参加が少なく、男性が気軽に行ける場所等、地域の男性の方々と一緒に考える「大聖寺地区仕合わせ座談会」を重ねていく。	・仕合わせ座談会を重ね「第1回しあわせ交流会」を実現。今後も地区目標の「自分のため誰かのために、持っている力を発揮できる町大聖寺」を発信し続け、地域の方々と一緒に話し合いを重ねながら、健康維持と介護予防につなげていきたい。	・薬局の方から、同地区におられる熱心な世話役の方を紹介して頂き、ご挨拶と男性の集まれる場所についての話しをする機会を持つことができた。今後も地域の方々との出会いを大切にしていきたい。	・今年度に引き続き2年度の4月にしあわせ交流会行事としては花見会を企画した。同時に薬剤師さんに「健康についての話」をしてもらえないか交渉し快く承諾してもらい、さらには駐車場も貸して頂ける予定だったが、新型コロナウイルスの感染防止対策で中止となった。コロナウイルスの感染拡大がなければ企画は順調に進んでいると思われる。コロナウイルス終息後に新たに介護予防事業として企画していく。	・しあわせ交流会を継続していく。地域住民の声を聞きながら対応していき、介護予防に繋げていく。 ・しあわせ交流会、座談会には他の職員も参加していく。 ・ランチとしては地域住民が主体で開催していけるように開催の目的を座談会で確認していく。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネーター業務について	・地域おたっしやサークルや元気はつらつ塾などの介護予防事業以外に、職員で役割分担し身近に個人で行っている趣味サークルや商店、銀行などの情報収集を行い、以前作った資源マップよりもより具体的な社会資源マップを作成する。	・チェックリストや相談業務、軒下から、地域の資源、サークル以外の隠れサークルや教室のマップを作成する事が出来た。今後もより多くの人が出ていく場所を発掘し、提案できるような情報収集していく。	・元気はつらつ塾に紹介した人で、利用が継続するか、また少し物忘れがある方など心配な方に対しては、ランチが担当の方と連絡を取りながら利用の状況を確認している。 ・サークル以外の教室については資源マップにあまり追加出来ておらず、今後意識して取り組んでいきたい。	・利用後が心配な方の担当者と連絡取り合うのは大変良いと思う。つないだら終わりではなく、情報を共有し、連携することを続けていくといい。今後も継続的に介護予防の活動をして行ってほしい。	・サークル以外にも個人での習い事が多い地域なので、習い事についても積極的に皆さんにお聞きして、資源マップに追加していく。その上で介護予防に繋げられるように提案していく。

令和元年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	大聖寺地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホームきょうまち
施設管理者	西垣 直子
事業責任者	岸和田 朱子
ランチ設置年月	平成28年10月

目指す姿	『自分のため 誰かのために 持てる力を発揮できる町 大聖寺』を目指して、地域で活動されている方達（近所の高齢者、サロンやサークルの活動者、民生委員、ボランティア、ケアパス劇団員）との接点を持ち、ランチ事業所と関係を構築していく。きょうまちスタッフ全員が地域で活動されている方達から認めてもらえるように、まずは挨拶を積極的に行っていき、町のどこで見かけても声を掛けあえる仲間作りをしていきたいと考えている。
------	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	事業所：事業所の軒下マップを作成し、地域の協力者をスタッフの誰がみてもわかるようにする。 スタッフ：ランチについての学びを深める勉強会企画を2名1組で立てる。どんな事を学び、考えたかを記録する係、議題を進行する係を決めて、スタッフ会議の時間を活用し年12回実施する。	・スタッフ会議で軒下マップ・軒下マップの必要性について説明し共有することが出来た。地域の協力員についてはスタッフと共有できていない。 ・スタッフ一人一人の社会資源に対する認識にばらつきがあり共有の必要性が十分に理解されていないので、ばらつきなく理解できるよう勉強会が必要な状況である。	・スタッフ会議の場においてランチ活動だけではなく事業所の利用者にとっても軒下マップ・社会資源が重要である事を具体的に伝えた。今後どのような形で社会資源マップを作成していくかについても共有した。社会資源マップの更新はできていない。	・課題に対しての策が不明瞭なので、具体的な施策・目標・計測できる数値で目標値を明確にして改善に取り組んではどうか。 ・施設見学をしてもらったり、利用している方の様子を写真などでみてもらえれば介護施設を利用し易くなるのではないかと。 ・相談対応は迅速におこない、本人の強みに着目出来ていると思う。 ・しあわせ交流会を通して地域に理解者を増やせたのではないかと。	事業所：去年度、軒下マップの必要性を共有出来たが、理解のバラつきがないように今後も月1回のスタッフ会議で勉強会をしていく。 スタッフ：スタッフを2～3人のグループ分けて各地区の割り振りをして、軒下マップを作成していく。スタッフ会議では作成した軒下マップから社会資源について確認していく。しあわせ交流会は大聖寺までこの家と運営方法・活動を考え運営支援していく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	事業所：寺子屋きょうまちのイベントに参加している各種団体リストを作成する。また、団体の方がこられた際に、同意を頂き、名前と所属がわかるようにネームプレートを作成する。 スタッフ：現在、きょうまちに足を運んでいる地域の方の名前を把握する。また、地域の方から名前を覚えていただけるように、スタッフ顔写真、会話のきっかけになる事柄を明記した掲示板を作成する。	・一部団体はネームプレートを作成した。各団体にオリエンテーションや役割分担等の説明や手伝ってほしい事をしっかり伝えてなかったため、お互いの気持ちの行き違いがあり寺子屋きょうまちに複数団体を呼ぶことを控えている。 ・今後お互いの力をうまく生かせる機会を作るための取り組みを検討する必要がある。	・寺子屋きょうまちに各種団体を呼べていない。各種団体との関わり方や、各種団体のきょうまちでの役割について検討中である。	・事業所のイベントに招待する事で近隣であるが故に知り合いにであることがある事があり、介護施設の利用に対して消極的になる事もあるので、イベントの招待もよし悪しだと思える。 ・イベントにおいて各種団体の方の名前などを把握する事は大切である。守秘義務を守れる方の協力は大切。 ・継続的な活動が必要だと思う。 ・区域のニーズに応じるために地域の実情を把握する事が大切。地域のニーズを把握するために民生委員さんや区長さんなど様々な方を運営推進会議にお呼びできるといいと思う。	・地域の実情を把握するため、又事業所の理解を得ていただくために、運営推進会議の参加者を各地区の民生委員、区長、交番、郵便局等にお声かけをする。 ・各種団体の方との交流や活動に参加し、地区の方から声を聞き、軒下マップを活用し、課題を整理する。 ・寺子屋きょうまちに参加される各団体にできる事やしたい事を確認し、各団体の主体性を尊重しながら協力していただく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	事業所：民生委員や協力者が運営推進会議に参加していただけるように計画する。スタッフの中でかがやき予防塾、おたっしやサークル、おいでサクラ、元気はつらつ塾などの各団体との窓口となる担当を決める。 スタッフ：各団体の担当と役割を決める。各種団体との接点を持つ意味を各々考える。	・各団体の担当分けはまだできていないが、事業責任者や管理者のみが地域活動に参加するのではなく、それ以外のスタッフの参加も徐々に増やしている。今後担当わけに取りくむ必要がある。 ・民生委員による運営推進会議の参加は継続して行っている。	・担当分けはしていないが、しあわせ座談会の活動を通じて地域者社会・地域の団体との繋がりが増えている。 ・今後はつながった団体等と座談会だけではなくそれ以外においても関係性を深めていく必要がある。	・出来ていない事があってもこれだけの事を実行にうつすことは非常に困難だと思う。 難しい課題だと思いが各種団体との接点は必要だと思う。 ・具体的な施策と進捗管理が必要だと思う。 ・地域ケア会議の必要性についてはケースを通して感じ、実践していけばいいと思う。	・今年度はおたっしやサークル・ふれあい・いきいきサロンの活動は、まず管理者・事業責任者・スタッフと3人で各団体の担当を決め、顔なじみの関係を築いていく。 ・3か月に1回は活動に参加する日を決め、お互いに情報を共有しながら連携を密にして関係を築いていく。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	事業所：地区おたっしやサークル約40箇所へ2回目の訪問企画を他のランチと合同で立てる。 スタッフ：地域各種団体との接点を持つ必要性や理由をスタッフと考えて理解し、地域の高齢者等の心配や相談を聞いた時はどんな小さなことでも記録に残し事業所内で共有する。	・地区おたっしやサークルへの2度目の訪問企画はたてられていない。 ・他のランチと協働で介護保険サービス事業所への見学・訪問を行った。	・高齢者学級に担当者や、今までつながりの薄かったサロンとの繋がりができた。各種団体と繋がることによって、それぞれが地域に対して同じような課題を感じていることが分かった。今後協働できる事をみつけ、ランチだけで抱え込まないようにしていくことが必要である。	・どのおたっしやサークルでも男性はすすめても参加者がいないのはありえることだ。難課題だと思う。 ・あまり出来ていないと分析した結果をどのように生かすかが課題分析結果により新たな施策がみえることも。 ・おたっしやサークルともっと連携をとってほしい。 ・予防ケアマネジメントを実施するために様々な事業に見学に行かれた点はすばらしいと思う。	・各種団体等からでた、地域の高齢者の心配事や相談を聞いた際には記録に残し事業所内で、課題分析をし、伝えていけるようにしていく。また、年2回は各種団体に出向き、予防の視点で気になる方がいないか確認していく。
5 地域福祉コーディネーター業務について	事業所：事業所として接点をもっている資源を、軒下マップとして作成する。事業所内で2ヶ月に1度ランチの事例検討会をおこなう。 スタッフ：ランチの担当者は交代で事例を提供する。現在ランチ活動に参加していないスタッフは、事例を通してランチ活動についての理解を深める。自分自身の軒下マップを作成し、地域の協力者の発見に心掛ける。	・事業所全体でのランチ事例検討会は行っていない。事業所全体での事例検討はシフトの兼ね合いでなかなか行えないので、まずはランチ主要メンバーでの検討会を行っていく予定である。 ・日程調整ができず、軒下マップの必要性の説明が不十分なため、スタッフ各自が自分自身の軒下マップを作成することはできていない。	・職員間の日程調整ができず、ランチの事例検討会は行っていない。ランチの主要メンバーでの個別の話し合いはできている。 ・関わっていない職員がランチ活動について理解し易い取り組みを検討する必要がある。	・地域のためにがんばってください。 ・継続的な活動を続けることで理解を深めましょう。 ・社会資源マップはその都度更新でいいと思う。作成した物を活用しながら一つ一つのケースに活用できますように。 ・継続的な活動を続けることで理解を深めましょう。	毎月ランチ連絡会の後に、ランチ主要メンバーで、定期的にランチケース検討会や地域福祉コーディネーター業務の勉強会を行い、質の向上を目指し、自分達の課題を明確にしていく。

令和元年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	南郷地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホームなんごうえがお
施設管理者	南出 明子
事業責任者	南出 明子
ランチ設置年月	平成28年10月

目指す姿	『安心して暮らしていく為に、家族のように1つの輪になる』 そのためには、地域との関係作りでランチの存在を知ってもらう活動や、地区の皆さんが集まれる場所作りに取り組んでいく。
------	---

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・保賀町と中代町でランチの知名度を上げる取組みとして、基本チェックリスト対象者が少ない月に、2町の二次予防事業対象者（ハイリスク予備軍）より、リスク度の高い方宅に伺い、訪問機会を増やしていく。 ・実際に介護に携わる機会が多い女性の団体（婦人会や保健推進員）の会合でPRしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に婦人会や保健推進員の会合には参加できていないが、まちづくり協議会主催（各団体が運営）の『敬老の集い』には毎年参加しており「ランチ紹介」の時間を設けてもらいPRしている。知名度の高まりは、基本チェックリストを持参した方がいたり老人会会長から連絡を受けたりすることから感じられる。 ・中代町老人会会長から会合でランチ紹介の打診があり、また保賀町の地域の方と交流する機会があり、今後も繋がりを絶やさないようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談が、地域の方や民生委員から直接相談が入る件数が増えており、また新規相談の際に「場所も知っている」「いつも回覧板を読んでいる」と言われることも多くなっており知名度の高まりを感じられる。 ・毎年の地区座談会で、各町区長・民生委員・福祉協力員の方々と毎年顔を合わせる機会をいただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にとっては介護は身近なものなので、回覧板もまわっているの、殆どの人には「なんごうえがお」を知っていると思う。小学校の授業や学童クラブで子供達も来ており、また獅子舞でも青年団も回ってきているので、興味のない関わりのない人以外は知られていると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年基本チェックリスト対象者になる方がいるので、担当を決めモニタリングできるようにしていく。新たな対象者は、情報共有し次年度や相談を受けた時に備えられるようにしておく。 ・昨年からの継続として、女性の団体（婦人会や保健推進員等）が参加している会合でPRしていく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議であがった地域の課題やニーズを把握していき、社会資源マップ作成につなげていく。 ・事業所の防災計画作成する上で、実際の避難訓練に地区の防災士や防災リーダー、近隣の方々に参加していただき、一緒にいろいろなことを考え取組みネットワーク構築に繋がりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な地域課題についての把握は出来ていない。社会資源マップについては「大聖寺なでしこの家」作成品を参考にしておくこととし、今後把握していくニーズに対し情報収集をしていく。 ・防災計画見直しのための会は開催出来ていないが、3月の事業所防火訓練に向けて実際に行動できる計画書作成を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題について、今年度の新たな相談内容の傾向から、認知症より身体の痛みや筋力低下、それに伴う閉じこもりや家事が困難になったという相談件数も多く、運動や活動に関する情報提供の必要性を感じた。 ・事業所の防災計画見直しは運営推進会議で公表することはできたが、その内容について評価をいただくことは出来なかった。（3月予定の防火訓練実施ができなかったため） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題と言われてすぐに思いあたることはなかなか出にくい。 ・防災について、行政は「ある」ことでよしとされることが殆ど。いざとなったら、計画通りには出来ないものなので、初期にどのような行動をとるかをしっかり共有しておけばよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統計から、運動や活動に関する情報提供のニーズが高いと思われ、地域資源マップ作成に取り入れる。また相談を受けた時に要望に応えられるように公的資源も含めた情報を事業所内で情報共有していく。 ・事業所の防火訓練に防災士や防災リーダーの方々に参加していただき、防災計画の評価を受け見直ししていく。その取組みを通してネットワーク構築につなげていく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・はつらつ進捗会議の報告を運営推進会議で行い、地域の事業として意見をいただき、地域課題やニーズの把握に繋げ、また新たな情報や意見をいただく場とし関わりについて見直す機会にしていきたい。またその内容を職員会議で報告し、事業所として情報共有していく。 ・ちょボラ隊交流会に参加し、どのようなことが課題やニーズとしてあるのか把握していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議でははつらつ進捗会議報告に加え会議メンバーと一緒に対応した事例を報告し具体的に理解してもらいやすいようにしている。その時の出た意見から地域の特徴や課題を把握していきたい。 ・ちょボラ隊交流会にはまだ1回しか参加出来ていないので、今後隔月参加できるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で、はつらつ塾の進捗会議報告の際、一般には「困難事例」として相談される状況だが、昔からのご近所仲間として地域で支えられていることを知る機会をなした。 ・ちょボラ隊交流会にはまだ1回しか参加できていないので、今後隔月参加できるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な話になると自分達から何か言う事は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で、はつらつ塾進捗会議やランチ相談の対応報告を行い、どのように地域と関係機関が連携しているかを知ってもらえるようにする。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ全員が、地域の介護予防に対する取組みの実際を知るために、担当制とし3カ月毎にサークル・サロン・はつらつ塾に参加できるように、勤務表に印をつける。 ・基本チェックリスト対象者の訪問時に「できる力（趣味や楽しみ等）」に視点を持ち、そこから介護予防（ボランティア活動や種々の教室紹介）に繋がられるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3か月毎のサークルやサロンへ参加出来ていない。勤務表に印をつけても実践できず結果的に事業責任者以外のスタッフは参加出来ていないので取組み計画を見直したい。 ・毎年基本チェックリスト訪問対象者になっている方と「顔なじみ」になっており、同時にニーズ把握が出来つつあるので、あくまでも「できる力」に視点をもちつつランチとしてどのような支援が出来るかを丁寧に考えられるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業責任者以外のスタッフはサークルやサロンへの参加は出来なかった。上半期終了時に、参加する目的を見直すことにした。 ・基本チェックリスト訪問では「できる力」に視点をもつこともなかなか出来なかった。また訪問時の視点もきちんともてていなかったため、来年度に向けて面接技術の習得もあわせて来年度取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事しながら、いろいろなサークルに顔を出すのは大変だと思う。スタッフも出れる人に絞って少しずついいと思う。 ・どこかに集まって体操するにしても車がないと難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業責任者とスタッフ1～3名が、地区のイベントやサークル活動に参加していく。その中で、ランチ事業所としてどのような取組みができるかというのをミーティングの際話し合っていく。
5 地域福祉コーディネート業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・相談内容の報告を運営推進会議で行い、どのような相談がありどのような対応を行ったのかを知っていただき、その中で地域の社会資源の情報やアイデアをいただけるようにしていく。 ・コーディネートの業務の中で特に介護相談や基本チェックリスト訪問の対応で課題になったことを、職員会議で振り返り理解や知識を深め事業所全体で「考える力」を強めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談内容について運営推進会議で事例を通して対応も含め報告しているが、社会資源を合わせて情報把握することまでは出来ていない。 ・基本チェックリスト訪問対応については、事業責任者への個別報告のみになっており職員会議で振り返り報告出来ていない。コーディネートの業務についてランチ連絡会にスタッフ参加が出来ておらず認識や取組みが深まっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回運営推進会議で、ランチ相談内容とその対応を具体的に報告することは出来た。その中で関係している参加メンバーの方々にも発言していただけたことはよかったと思う。 ・コーディネートの業務の振り返りは殆ど出来ていない。ランチ勉強会に参加し、他事業所の取り組みを知り刺激になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしの暮らしの手帳」は高齢者本人より介護をする人を対象にもっと広められるといい。 ・対応した内容を具体的に説明してくれるのでわかりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネートの業務の1つとして、基本チェックリスト訪問に焦点を絞り計画的に実施していく。具体的には、前年度の情報整理や訪問の進め方や聞き取り方について他担当スタッフ同士で情報交換や勉強会を行う。それをきちんと行う中で、実態把握やケースの振り返りを行いながら訪問していく。

令和元年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	山代地区高齢者こころまちセンター 山代すみれの家
施設管理者	古井 正美
事業責任者	直谷 麻衣
ランチ設置年月	平成27年9月

目指す姿	山代という地域の中に根付いた事業所になる事で、「相談しやすい場所」として位置づけられるであろう。多くの人たちとつながりを持った事業所になり、どのような方法であれ、自分たちが直接関わったり、出掛けたりしなくても、自然と地域の問題、課題、楽しい事、嬉しい事、素晴らしい事、困っている事などいろいろな情報が舞い込んでくる事業所でありたい。その中で「人と人とをつなぎ合わせられる場所」になればと思います。
------	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	・すみれの家で行っているラジオ体操を通して、ランチ事業、小規模事業などを行なっている職員を見て、職員だけでは賄えない事が多くあることを地域の方々は理解してくださっている。ラジオ体操の主なるメンバーや声の掛けやすい人などを集めて、「自分たちがしたい事、ラジオ体操の時間の活かし方」などを見つかる事が出来るとよいと考える。	・地域の方々の健康意識や認知症予防に対する気持ちはとても高くなっている。オレンジカフェを通して、講座に積極的に参加し、真剣に聞いている。いつも多数参加してくださっている。 ・山代すみれの家の行事などを通して、したいこと、出来ることを把握した。後半に向けて、職員と一緒に取り組めるような仕組みづくりを話し合った。	・ラジオ体操に参加している方々で、「かかとあげ体操」の号令を掛け合っている。すみれ職員が主導しているのではなく、地域の人たちから積極的な号令をしている。 ・普段職員は通常業務に追われ、地域の人とゆっくりお茶する機会がない。何となく「地区こころまちセンター」という看板を持っていることを知っているだけかもしれない。	・地域の人から『ラジオ体操が終わったら、かかと上げ体操やりますよ、頑張りましょう』の声が響くようになってきた。役割と声を出している様子がある。 ・利用者から地域の人たちに、「一緒にお茶飲んでいかないの？と声かけられるんです。誘ってくれるんです」との声を聴く。	・小さいことでも確実に地域へ働きかけることを継続させていきたい。今は「かかと上げ体操30回」が定着してきたので、しばらくしたら、ほかの体操が出来るように声掛けし、ステップアップさせたい。 ・1週間に2日ほど、すみれの家の利用者とラジオ体操参加者と共にお茶をする時間を作り、「地区こころまちセンター」としての役割を知ってもらう。
2 区域ごとのニーズに応じた重点的に行うべき業務の方針	・認知症やすみれの利用者を見ながら、地域の方々は「我が事」と捉え始めている。しかし接し方が難しいと感じている。認知症の方の声や講義を聞いてもらったり、交流する機会を多くもちながら、認知症を理解していただきたい。「オレンジカフェすみれ」の役割分担なども継続できる方法を考えたい。	・地域の方々は山代すみれの家にラジオ体操や手仕事サロンで来所することが多く、認知症の方に対する理解も見られ、とても温かい声掛けをしてくださっている。 ・オレンジカフェの手伝いなどは、職員からの声掛けで手伝っていただいている。しかし、ラジオ体操に来られる方の大半は世話役を自身から積極的にしたいとは言わない。多くの方にボランティアを臨むより、小さなことでも出来る力を見つけれないか、声掛け方法をランチ内でミーティングで話しあった。	・「オレンジカフェすみれ」の手伝いにしても、カフェ参加にしても固定されてきている。地区の人から、「行きたいけど、遠くて行けない」という声もある。もっと多くの人に楽しんでもらいたいと考えている。 ・地域のボランティアさんに送迎を頼んだところ快く承諾して頂けたが、3月の「オレンジカフェすみれ」は新型コロナウイルスの感染防止のため、中止となった。 ・丸山町の課題が明確になってきているため、地域ケア会議を行なった。	・もっと自分たちから「～を手伝いたい」と言う声が出ると思うが、「すみれの意向もあるんで、あまり勝手は言えない」とか、「もっといろいろな方がお手伝いをすればいいのに」、と言う声も聞かれた。すみれの場所であり、他者の目があり、出しゃばれない思いが伝わる。 ・担当地区の民生委員さんより、「オレンジカフェに参加したいという人もいるんだけど、すみれさんまで遠くて、足がないのでいけない」という声を聴いた。どうにかならぬいか。	・来年度は「オレンジカフェすみれ」で南陽園とのコラボが出来なくなった。しかし違った形で取り組みを考える。すみれの利用者と一緒に食事をしてもらい、認知症の方をもっと理解していただくとともに、同じ地域で暮らす住民として、協力し合える関係が作れるようにしていく。 ・住民が主軸となってボランティアさんの力が発揮できるような取り組みを考える場を設ける。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	・現在の作成済みのマップを利用し、今後より分かりやすい社会資源マップへと作り上げていく。 ・「オレンジカフェすみれ」をもっと周知出来るように、今年は市内のケアマネージャーに知らせていく。 ・知っている民生委員とは関係性が保たれているが、知らない人も多いため、今年は今まであまり関わったことのない民生委員と関われるよう意識していきたい。	・資源マップの見直しを職員全員で行なった。山代地区の姿に対して認識が深まった。また見直しをしている中で、利用者や地域の声など聞いてみると、途切れていると感じたことが多かった。途切れた線に戻すことは大変難しいと感じた。 ・オレンジカフェすみれは市内各事業所（特養、グループホーム、ケアハウス、小規模など）にメールで送っている。毎月何人かは楽しんでいただいているので、今後も少しずつ事業所も増やしていきたい。 ・民生委員の顔見知りがなかなか増えない。	・地域でのつながりが途絶えてしまっていた人が「オレンジカフェすみれ」の参加によって関係が再開した人もいる。手仕事サロンや行事なども上手く利用していけるとよい。 ・チェックリスト訪問から、地区の課題などが見えてみて、1月には「丸山町」の地域ケア会議を開催した。区長を始め、役員の方々から積極的な意見を出していただけた。ただ、これからという時期に新型コロナウイルスで集まりや人との関わりの自粛もあり、取り組みがなかった。 ・「山代地区をよくする会」にて昨年から話し合った「雪かきボランティア」が暖冬で中学生の力を発揮してもらえず残念だった。	・丸山町の民生委員さんはとても熱心である。地域ケア会議開催をお願いしたところ、進んで役員さんたちへアプローチをしてくださった。男性の若年の認知症の方が多いことや足の問題が上がった。特に男性の出る場所がない問題が大きい。地区の方々も気になっていた。その中で「積極的に出る人をターゲットにしてその人達を中心として出ない人に声を掛け合っていく。何回か誘うことで参加する可能性もでてくるのではないかな。まずは、カラオケを活かせる」と建設的な意見が聞かれた。 ・すみれの家の登録者ではなくても、総湯や警察からすみれの家に相談が入る事が多い。	・民生委員が今年改選があった。新しい民生委員になったところも多いため、少しでも多くのランチ職員が担当地区の民生委員と顔見知りになる。そうすることで、気軽に相談できる関係性を構築していく。 ・丸山町の課題を継続して把握していき、民生委員を中心に、町の人たちと一緒に取り組んでいく。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	・担当制にしても、なかなかサークルやサロンに出掛けられない為、今年度は1、2ヶ所決めて「すみれの家」として関係性を深められる場所を決める。その中で介護サービスにつないだ人や継続訪問している方などを「オレンジカフェすみれ」や山代ふれあい会などのサークルなどで見ていけるようにすることで、連携を意識出来ることよい。	・地域のサロンやサークルへ行けていない。まずはサロンやサークルの代表者を知る事から始めていく事にした。ふれあいの会は月1回は行けるといいと考えている。ちょっとしたことで一緒に地域を考えていけると感じる。	・相談を受ける上で、どうしても本当のニーズを受け取れなく、家族の思いやデマンドに引っ張られてしまっていると感じる。ケアマネージャーにつないだ後も見守り体制を取ったり、一緒に支援方法を考えたりしている。 ・ラジオ体操の顔触れも変わってきているが、なかなか名前が覚えられない。3月は新型コロナウイルス感染予防のためラジオ体操が出来ず、地域の人たちの出る場がなくなったことから、今後認知症悪化などが気になる。電話や近所のお店にて安否の確認を行なった。 ・電動麻雀台をもらい、健康マージャン会立ち上げの呼びかけを始めようとしたが、出来なかった。	・3月、毎日どこへも行けず、すみれにも行けず寂しいです、との声。	・ラジオ体操に来られている方から、一般浴の相談が入ってきた。関係が出来ていることで、気軽に声をかけて下さった。今後も体操の人たちの顔をしっかりと覚えられるように写真を撮って、職員全員が名前を覚えていく。 ・本当のニーズを捉えられるよう、面談の後に事例検討や振り返りをランチ内で行い、軒下マップや社会資源を具体的に活かせるようにしていく。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネータ業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の方々と関わる機会が多くなってきた。ボランティアや世話焼きさん、ラジオ体操の方との交流も増えてきているので、今まで作った社会資源マップを活かし、広げる意識をもって活動する。資源に対し積極的に見学などに伺い、知識を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期に手仕事サロン、お出かけまんぷく食堂など、かもママさんとのコラボが多かった。地域の方主導で動くことは出来なくても、補助的にすみれ職員を手伝うことはできている。楽しみをいろいろな人に周知してくれている。 ・すみれの家独自のチラシを作って、「山代地区高齢者こころまちセンター」として周知出来るようにし始めた。元気な人、何かしたいと思っている人、困っている人など、どんな方でも山代すみれの家を通して、繋がる地域になって欲しいと声掛け方法についても検討した。 ・「山代地区をよくする会」参加者は固定化している。しかしその方々の発信により地域の声を拾い上げることが出来ていると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「山代地区をよくする会」は継続出来ている。話し合いの中で、中学生による「雪かきボランティア」やノルディックウォークの開催など地域住民のつながりがどんどん広められていると感じられた。その中で「一人暮らしの方の必要な支援」についての課題が上がり、アンケートを実施する予定だったが、一人暮らしの会が中止となってしまいできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山代版子供食堂「代こみ食堂」の模擬が2月にあった。他世代・他分野とタッグを組んで、来年度は6月から月1回第1日曜日に行なっていきたい。「良いことですね」と地域の人たちからも好印象を持たれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かもママがすみれの家の地域交流室を利用して「代こみ食堂」を月1回行なっていく。そのうえでランチとして、子供との関わりを持ちたい、役割を持ちたいという世話焼きさんをマッチングさせていく。 ・「山代地区をよくする会」については、まちづくり推進協議会会長が交代になったが、住民主体で集まっているので、今後も山代地区をよくする会に対して後方支援を図っていく。

令和元年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	山代地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホームききょうが丘
施設管理者	鹿野 久美
事業責任者	中野 英里
ランチ設置年月	平成29年10月

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・山代地区の為に何かしたいと意欲のある住民が地域で活躍できるよう、一緒に取り組んでいきます。山代の人たちがここに住んで良かったと思えるような街づくりを住民と共に目標をもって目指していき、できることから一緒に頑張っていく。 ・いつでもどんなときも立ち寄りやすいランチ事業所として身近な地域に存在し続けられるよう、みんなに優しく明るく安心できる場所になります。
------	---

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の関わりから地域支援に向けて働きかける役割の意識化など小さなことの積み上げを職員同士が確認し合える様、連絡会の後にランチミーティングをする。 ・お抹茶カフェ、介護予防教室の際に相談窓口の紹介やランチの活動報告なども実施する。チラシの配布や講座の後にランチの紹介を口頭で伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチミーティングはチェックリスト配布時に実施している。個別支援に関しては全体での共有には至っていないものの事責・管理者は動向の把握に努めている。 ・11月お抹茶カフェで実施する介護予防教室でランチの紹介や地域での活動についての報告を行うことになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模ミーティングの後にランチミーティングを行うことがある。内容は継続訪問の状況や基幹型包括からの連絡・協議事項である。ケースごとの経過のフォローアップは管理者や事業責任者が主軸となり実施する体制がある。しかし、ランチ全体で共有できてはいないため、全職員がランチの動きが分かる為に明確に可視化できる工夫が必要。 ・介護予防教室で身近な相談窓口についての連絡をした。地域の方が身近に気軽に相談しやすい事例を交えて内容で講義した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の話しを改めて聞いて、役割がよく分かった。説明が分かりやすかった。 ・民生委員の会に職員の人が参加してくれて、民生委員から直接地域の人の心配事の相談をしてもよいというのが分かり、相談しやすくなった。 ・少しずつ地域の人には周知されてきていると思うが、実際の件数で地域からの相談はどのくらいあるのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチで対応した対象者の状況を職員間で共有する。毎日の申し送りミーティングでも相談状況を伝えられるようにする。 ・小規模日報の「利用相談・調整等に関する欄」にも記入していき、ランチ内での相談内容や活動状況を把握し、全職員がランチの動きが分かるよう可視化していく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きランチ担当圏域を地区担当制で相談受付をしていく。ランチ応援団マップを活用し、担当職員が地区の特性や住民のことを理解する。 ・ランチ応援団マップに情報を追加していく。 ・目指す姿をいつも見えるようにする（日報に貼布）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ききょうが丘担当圏域を3ブロックに分けた。1ブロック2人ずつ職員担当制にしチェックリスト訪問から実施している。今後新規相談もブロックごとに回る予定。また、ランチ応援団マップは運営推進会議で住民と一緒に情報共有・追加した。事業所で把握している社会資源マップと合わせてさらに追加していき、11月運営推進会議でマップのボリュームアップと住民との共有化、繋がりに活かす方法について検討していく。 ・ランチとしての目指す姿は日報に貼付し、いつでも確認できるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ききょうが丘担当圏域を3ブロックに分け、ブロック別に担当職員（2名ずつ）を決めている。チェックリストや新規訪問はできる限りブロック担当職員が対応するようにした。ブロックごとに対応する事で対象者同士の軒下マップが繋がりと、地域の理解を深める事ができた。 ・運営推進会議では議題の内容の変更があり、ランチ応援団マップの追記はできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ職員が同じ地域の担当として回ってもらえるのは、住民としても安心。顔を覚えて相談しやすい関係を時間かけてつくれるという。 ・地域住民として自分ができていることを地域に還元したいという気持ちはある。その思いはそれぞれの価値観がある為、なかなか一律にはなりにくいと思う。個別の働きかけがランチと一緒にできればいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3ブロック制訪問を継続していき各地域に強いランチ職員を育成できる。 ・地域の方と触れ合う機会には積極的に名前を名乗り、相手の名前を覚えるように心がける。 ・運営推進会議においてランチ応援団マップを追記していく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック連絡会での事例検討の継続。 ・山代地区を良くする会に参加し、住民と山代地区の事を考える機会を持ち続ける。会の進行や運営などは、まちづくり協議会会長や山代ランチすみれの家と相談しながら、住民が主体的にできるようサポートしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック連絡会の事例検討では、地域コーディネートの視点を重視し検討会を実施している。 ・山代地区を良くする会に毎月参加。地域課題だけでなく山代地区の強みを再発見する活動を住民と共にやっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック連絡会の事例検討では、地域コーディネートの視点を重視し検討会を継続した。他ランチからの意見を参考に偏った見方を修正したり、違う視点に気づくことができ、その後のコーディネート支援に活かせるものだった。 ・山代地区を良くする会は課題整理だけでなく、住民と共に山代地区の強みを知る活動も併せて行ってきた。課題の整理については独居高齢者のニーズについての把握等、取り組むことができなかったこともあり、次年度も引き続き検討していきたい。 ・中学生の雪かきボランティアの実現に至らず。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山代地区を良くする会へはできる限り参加している。地域の人のいろんな発想で話し合えるところがよい。住民目線での話し合いをランチの人にサポートしてもらいながら続けていきたい。 ・独り暮らしの人へは民生委員としても関わっていることもあり、生活状況に課題がある高齢者のことをランチの人と一緒に考えてもらえると思う。会合にも参加して貰えて顔つなぎはできたが、もっと連携が取れるといいと思う。 ・雪が降らなくて今年も中学生の雪かきボランティアができなかったことは残念。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民や民生委員からの相談等増えているため、今後はその後の経過についてもその方たちと積極的にやり取りし、繋がりを継続できるよう連携していく。 ・ランチ圏域の社会資源マップをリニューアルする。3ブロックごとのマップで見やすく活用しやすいものにする。 ・2年続けて中学生の雪かきボランティア活動が実現していない。山代地区を良くする会でボランティア実施のフローチャートを作成した経緯もある為、企画が途切れないよう中学校に働きかける。 ・まちづくり推進協議会の会長が変わるが、今後の山代地区を良くする会の運営や進行が住民主体で継続的に活動できるよう、すみれランチと協働で後方支援していく。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> 山代のサークルやサロンへの参加は続け、参加者の名前を覚えたり顔なじみになる。代表者と仲良くなる。 山代地区応援団マップを充実させる。具体的には、良くする会や民生委員の総会等に出向き、住民と一緒にマッピングできるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題をあげ続けているが参加状況は変わらず。顔馴染みの人ができたり代表者との繋がりから、個別またはコーディネート支援に活かされているかは継続して課題がある。 ランチ内での応援団マップの充実を進めているが、広域ではできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ランチの社会資源を整理したものを作成している。今後はランチの社会資源マップをリニューアルし追記したい。応援団マップと合わせたものが出るとよいか。 民生委員の会合に出向きランチの紹介をしているが、ケースを通しての民生委員との繋がりはまだ拡充してはいない。 地域からの要望でお茶飲み会の企画（毎月20、30日）を運営推進会議で図り、次年度開催を予定した。協力者を募りチラシ作成したが、現在開催自粛中。 	<ul style="list-style-type: none"> 1区の区長さんは協力的だと思う。区民会館の使用時には相談してみるといいのでは。民生委員だけでなく区長としても地域の課題を感じているかもしれない。 1区の人でも寄り合う場所が欲しい、自分ができる事はしたいというやる気のある人がいる。その人たちがお茶飲み会等に協力できるといいのではないかと？仕事をやめても身体は動くので役に立てることがあればしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 区長さんに運営推進会議の参加について伺う。現委員さんを通して知り合いになる。 ランチ社会資源情報とマップを組み合わせて圏域社会資源マップを作成する。 お茶飲み会（毎月20、30日）は地域の方の協力が得られ、住民主体での定期開催ができる。地域の人にお茶飲み会の名称を付けてもらい、住民中心で発信し周知できるよう声かけやチラシ配布などのサポートをする。
5 地域福祉コーディネート業務について	<ul style="list-style-type: none"> ブロック連絡会では、引き続き軒下を活かしたコーディネート支援についての振り返りをしながら、さらに、日報から課題を抽出し、その課題と軒下との結びつきを検討し、具体的取り組みに活かせるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討会で個別ケースからコーディネート支援を重点的に考える視点を養うための検討会を実施。ランチの日報から課題を抽出し、ブロック内で共有した。その課題をその後の活動に活かしていくことを継続していかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ブロック連絡会での軒下マップを活かしたコーディネート支援について、軒下マップから見える課題や気づきを検討している。デマンドにこたえる対応にならないよう社会資源の活用や近隣との繋がりを検討できる視点を持ち続けられるよう継続的に検討会を行っていききたい。ランチで作成した社会資源情報をコーディネート支援に活かしていくことを考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ランチが地域のために丁寧に活動していることは運営推進会議に参加できているからこそ理解できる。自分たちもロコミなどでランチのことをもっと地域に伝えていけるようにできることをしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ランチで作成した社会資源情報と3ブロック制訪問から圏域の現状把握ができ、軒下マップを通して情報を重ねていき、地域の現状を知る。 運営推進会議で軒下マップを活用した事例検討が実施していく。

令和元年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	庄地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホームいらっせ庄
施設管理者	森下 絵美子
事業責任者	小林 百合江
ランチ設置年月	平成29年10月

目指す姿	「誰でも困っていたら助け合える町づくり」
------	----------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・修了生との交流会を引き続き継続しつつ、今後は、修了生以外の地域の方にも声かけしていく。また、小規模多機能ホームのボランティアグループゆいの会との顔合わせや茶話会を行っていく。 ・地域型元気はつらつ塾を含め、地域の活動を把握、理解していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かがやき予防塾終了生と、毎月の地域交流会を継続している。 ・地域型元気はつらつ塾について。活動内容、対象者、申請の流れについて職員会議等利用し、把握する場を作った。はつらつ塾に足を運ぶだけでなく、必要な方の自宅を訪問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かがやき予防塾終了生やボランティアの方との交流会が継続できている。修了生が毎回活動内容を企画し実施している。 ・地域型元気はつらつ塾の進捗会議には必ず出席し、対象者の様子は訪問にて把握していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の交流を続けているのはすごい。 ・畑作業がない冬期は外出の機会が減るため、その時期は健康クラブに参加する。男性の出場所が少ないため、活動できる場所がある等、新しいことが始められるかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチと各種団体や人との関係づくりのため、町の会合や民生委員の定例会に参加する。 ・かがやき予防塾修了生と町の特徴や不便なところについて話し合う機会をもつ。 ・地域や個人の困りごとについて、本人のできる力を意識し、解決に向けて本人が考えられるよう関わる意識を持つ。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・職員個々が地域の方と関わりを持ち、地域の情報を持っている。その情報を職員間で共有する機会を設ける。 ・相談の傾向を確認し、地域の課題を把握していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間での情報共有の場に、職員会議や毎朝・夕のミーティングを活用の継続を行なう。 ・相談の傾向は集計データで把握した。その課題に対して、何ができるか考える機会をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間での情報共有の場に、職員会議や毎朝・夕のミーティングを活用し継続している。必要時にはミニミーティングを設けている。 ・相談の傾向は前期と変わらず、地区の傾向であると考えていた。筋骨格系の疾患での相談が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区全部の町内を把握するのは大変です。知りたいことがあった時、聞けば教えてもらえる人と事業所が繋がっていると良いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で社会活動を希望している人を修了生やはつらつ塾の協力員から聞く等で把握し、ランチの紹介をする。 ・地区の課題（疾病や阻害要因、不足した地域資源等）やニーズを相談からまとめる。併せて、日報の考察に職員が地区課題と感じたことを記載していく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで事業所が培った地域との関係性を活用し、地域の各種団体や民生委員とつながりをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員やサークルリーダーとの関わりについて、地区の文化祭や老人会等に参加し、全民生委員と繋がりが持てた。おたっしやサークルに声をかけてもらい交流を持った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末となり、地区の役員の変更や民生委員の交代があった。民生委員や各種団体との繋がりを持つことで、今後の支援や地域ケア会議参加の協力体制づくりのため、挨拶を行い繋がりを生み出した。民生委員とは顔合わせ済みのため、今後、地区の役員にも挨拶をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の行事に参加していて大変ですね。町内の掃除にもいつも参加してくれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続ケースについて、民生委員や社会資源を把握し、追記を丁寧にしていく。 ・継続的に見守りが必要なケースは見守るポイントを整理する。本人の軒下マップからランチも繋がりをもち、見守る点を共有していく。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域型元気はつらつ塾やおたっしやサークル、健康クラブ、若葉クラブ等、地区の活動へ参加を続け、活動内容や目的について理解を深める。 ・地域の情報把握について。職員個々に地域の方からお話を伺っているが、記録として残っていることが少ない。日報を活用し情報共有し、地域の把握を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域型元気はつらつ塾やおたっしやサークル、健康クラブ、若葉クラブ等、地区の活動に参加している。 ・地域型元気はつらつ塾進捗会議にて参加者の状況把握を行い、支援の方法を考える機会にしている。進捗会議前には対象者の様子を確認している。 ・地域の情報把握について。地域活動への参加は日報に記載するようにしているが、考察の記載が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若葉クラブ参加者から、参加者を増やしたいとお話を伺った。参加者が減少傾向、広報にも力を入れたいとのこと。 ・退院後にサークル参加を悩む本人より相談があり、身体状況のアセスメントをしてサークル参加の促しをした。今も参加できている。 ・地域の方から伺ったことは、大切な地域の情報であると職員の理解は深まっている。 ・日報に関して、考察の記載が不十分なことがある。どうしたらよいか、疑問点等、自分の考えを書くことを職員間で話し合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体操教室や健康クラブに参加すると、町の方とお話できて良いです。地区のことを知る機会になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的ミーティングで日報の考察を活用し、関わりの中での悩みや本人や家族のニーズ・課題・支援方針の振り返りを月1回1ケースの事例検討を行う。 ・サークルや健康クラブへの参加者が途切れた際に連絡や情報をもらえるように関係を作る。地区の介護申請等につながりやすい課題を整理し、サークルリーダー等に伝える。
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で地域の情報共有を行う際、その都度社会資源マップに情報を追記し、必要時に活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源マップについて、都度の追加は不足している。定期的に機会を設けることにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源マップについて。商店や公の機関は記載がある。人や繋がりの記載が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源マップをみせてもらいました。 ・町別の若葉台の一人暮らしの方の地図もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源マップにヒトの情報（世話焼きさん）を記載する。ヒト・場所・その他に分け、毎月追記と確認を行なう。 ・昨年度、若葉台の一人暮らしの方の把握を行なった（地図マッピング）情報に変化がないか、見直す機会をつくる。

令和元年度 加賀市ブランチ評価 統括表

ブランチ名	勅使・東谷口地区高齢者こころまちセンター 小規模特養ホームちよくし
施設管理者	中野 裕紀
事業責任者	北村 貴子
ブランチ設置年月	平成31年1月

目指す姿	勅使地区：田畑などの役割を続けながら、交流の機会を通じて健康に対する意識が高まるまちづくり
	東谷口地区：健康に対する意識の高さを活かし、誰もが集える居場所のあるまちづくり

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	・地域の行事、サークル活動に参加をして、参加者の皆さんと顔見知りになる。ブランチの周知活動を積極的に行い、ちよくし職員の顔を覚えてもらう。	・東谷口のサロンでのケアパスへ参加し、ちよくしブランチの紹介を行ったが、それ以外のサークルサロンには顔を出せていない。地域の行事には参加しているが、顔を覚えてもらうまでには至っていない。 ・勅使地区の見守り座談会に参加し、ちよくしブランチの紹介を行った。	・事業所内で、ブランチ活動に参加している職員数が少なく、地域の方々と顔見知りになる機会が少なかった。地域の行事には参加したが、ちよくしブランチの周知は不足している。	・チラシ、地区広報などで周知できたのは良かったと思う。 ・サロン、サークルに顔を出していくのは、いいと思う。 ・見守り座談会に、ブランチは今後も相談役として参加してほしい。	・地域のサークル、サロンに出向いてブランチの周知を図っていく。 ・民生委員や各町の区長、まちづくり推進協議会にブランチの周知を行う。（区長会、民生委員定例会の参加） ・2地区のまちづくり協議会事務局に顔を出し、今後のブランチ活動の展開についてアイデアをもらい、出来そうなことからやってみる。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	・地域のサークル活動に参加をして、どのようなニーズがあるか把握する。 ・まちづくり協議会の会合等に参加して情報収集を行い、地域の課題の把握に努める。	・相談・訪問をする中で、居宅に閉じこもりがちの方や、出かけたくても移動手段がない等の声を聞くことは出来ている。サークル活動には参加が出来ていないため、ニーズの把握が出来ていない。	・サークル活動の参加を予定していたが、業務の都合上難しい状況があった。訪問を通して数名の仲間が集う場を作っているケースがあることを把握している。 ・まちづくり協議会の会合に参加しているが、具体的な情報や、ニーズ・課題の把握には至っていない。	・勅使地区と東谷口地区では、生活習慣等似ているようで違う。それぞれに合った方法ですすめてほしい。 ・閉じこもり高齢者が東谷口地区に多いというデータを見てびっくりした。	・2地区を担当制とする。各地区について担当職員が地域住民、地区の特性を知る。知った情報を事業所内で共有する。 ・介護予防基本チェックリストのハイリスク者訪問を担当制で行い、早めに出会い予防的対応を行う。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	・担当地区にある医療機関と協働し、健康に関する支援体制の構築を行う。 ・運営推進会議に地区関係者の参加を要請し、ブランチの活動報告・意見交換を行い、ネットワークの構築を推進する。	・担当地区にある医療機関の医師が、健康相談を行っており、合同で介護相談を行うことを提案し、毎月勅使地区会館にて、健康・介護相談を行っている。介護相談の際、会館職員にも情報提供を依頼している。 ・運営推進会議に2地区の地域住民に参加を要請し、活動報告・意見交換を行っている。	・健康相談・介護相談を行っているが、直接相談を受けることはなかった。医療機関の医師とは、今後地域の課題に沿った健康講話を行うことができないか、提案し了承を得ることができた。 ・運営推進会議にて、活動報告・意見交換を行っているが、地域型元気はつらつ塾の進捗状況についての報告・意見交換が多く、地域の方も元気はつらつ塾の必要性の理解を深めることが出来た。	・地域の医療機関と協力してもらえれば、心強い。健康相談、介護相談を行っていることを、地域の人がどこまで知っているかはわからない。	・地域の課題を抽出し、健康講話を開催できるよう働きかける。 ・健康相談と併せて行っている介護相談を継続的に実施していく。 ・地域課題の解決に向け立ち上げている地域型元気はつらつ塾の協力員との連携を密にとり身近な地域の情報を把握していく。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	・地域のサークルに参加し、内容を把握する。参加していく中で、一緒に介護予防活動に取り組んでいく。 ・民生委員・区長等から情報をもらい、一人暮らし世帯の把握をして、早めの出会い・つながりを持ち、軒下マップの作成を行い、ケアマネジメントにつなげる。	・地域のサークル活動への参加が出来ていない。また、民生委員・区長からひとり暮らし世帯があることは聞いているが、個人を特定してブランチに関わるまでには至っていない。 ・2地区合同の元気はつらつ塾の開設に向けて、地域ケア会議を行っている。	・ブランチ活動を通して、住民の声を聞き、介護予防の活動の場として地域型元気はつらつ塾の開設が、決定した。事前にチラシを配布し、塾の受講生や協力員の募集を行い、訪問し手続きを行った。 ・軒下マップの作成を行っているが、作成だけに留まっている。ブランチとして継続的に支援するケースが少ないため、ケアマネジメントにつながるまでには至っていない。	・地域型元気はつらつ塾の開設は、自分たちの年代（60才代）の将来の活動の場になる。 ・サロン、サークルがない町があったので、その人たちの参加できる場ができて良かった。	・地域型元気はつらつ塾に参加して、活動内容、目的を理解し、参加者の経過をみていく。 ・地域のサークルに継続的に参加し、ブランチ職員の顔を覚えてもらうようにする。 ・軒下マップを通じて継続的支援を行い、個々の課題を出し合い整理していく。
5 地域福祉コーディネーター業務について	・担当地区にどのような資源があるか把握して、資源マップを作成する。必要な時に情報として提供できるように、一覧表にする。	・資源マップの作成を行っているが、内容についてはさらに情報収集を行い、追加していく必要がある。	・社会資源マップを作成したが、追記が少ない。訪問する中で、少しずつ資源につながる情報を収集しているが、マップに落とし込めていない。 ・事業所内でブランチ活動・地域福祉コーディネーターについて周知が不足している。	・これからも丁寧にブランチ活動について地域の方々に周知していく。	・地域の情報共有を行う際、社会資源マップに必要な情報を追記する。 ・ブランチ勉強会、面接技術研修等に参加して、ブランチ職員として知識やスキルアップを図り、地域福祉コーディネーターの考え方を事業所内部にも伝えていく。

令和元年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	片山津地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホームいらっせ湖城
施設管理者	福島 和江
事業責任者	前田 さよ
ランチ設置年月	平成27年7月

目指す姿	隣近所が顔見知りになり、見守り助け合いできる関係になる。
------	------------------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> 地域食事を開催時だけでなく、身近な相談窓口が湖城にあるという事を地域の人に知ってもらう工夫をする。 独居の方や介護に悩んでいる方達の相談に対して、本人の出来る力を把握し、地域には介護保険サービス以外にも社会資源（元気はつらつ塾、移動スーパー、宅配弁当…等）が沢山あるという事を助言していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のサロンには定期的に参加している。その場では食事会や喫茶会のチラシを配りながら、地域の情報を聞きだす事が出来ている。 訪問時、ランチのパンフレットを持参し、身近な相談窓口が湖城にあるという事を知ってもらっている。又、知人や友人の方等にも「いらっせ湖城に相談できるよ」と伝えてもらうような工夫をしている。 悩んでいる事や困っている事など相談内容を聞く中で、本人の出来る事、出来ない事をアセスメントし、その方にとって必要となる社会資源（例えば家事支援サービスやはつらつ塾等）の助言を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> いらっせ湖城が『身近な相談窓口』であるという事は、ランチ活動を通して周知されてきた。しかし、まだまだ知らない方もいる。地域の方には、いらっせ湖城での取組み（小規模の取組み）周知と併せて、ランチのチラシを持参し、身近な相談窓口の周知もおこなっている。 民生委員より直接相談が入り、独居の方や地域の心配な方の家に同行訪問する事もある。またランチのみで実態調査し、本人の出来る力を把握したり、社会資源の提案している。そのことを民生委員と情報共有をおこなうことで、民生委員の不安軽減にもつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域食事を通して、町の情報収集の機会や町の気になる方、町の協力者を知る機会になればいいと思う。 これまでの個別訪問の実態を積み上げて、町の課題や町の強みをデータ化、見える化していく。データ化・見える化をする事で、今後ランチが地域コーディネートをしていく中でのヒントが見つかるのではないかと。 いらっせ湖城が『身近な相談窓口』という事を知らない方に、どのように周知していくのか。具体的に方法を見つけたらいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の人事異動があり、新しい体制の中でランチ業務を行っている。新人職員や異動職員はランチ業務や包括ケアシステムの理解があまりない。職員会議などを通して、職員間でランチ業務や地域包括ケアシステムについて再度共有をおこなっていく。また、片山津圏域が抱える地域課題を事例を通して学んでいく。 職員会議などの学びを活かし、新たな職員がチェックリスト訪問できる体制を築いていく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> 他事業所の運営推進会議やサロン等に参加し、今の地域の課題ニーズを知り、相談時に情報提供出来るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 他事業所の運営推進会議に出席したが、その場では地域の課題まで聞き出す事は出来なかった。しかし、自事業所運営推進会議では、『毎日の入浴が困っている』『独居の方のゴミ出し』など大きな課題が出てきた。しかし、現状としてこれらの問題に対する解決策は出ておらず、情報提供も難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議では地域のニーズや課題について話し合っている。温泉場という地域柄、アパートに居られる方も多い。アパートには風呂がない為、総湯まで歩いて行っているが、高齢となり総湯まで行く事が出来ず『入浴が困っている』という問題が多い。 独居の方が『ゴミ出しが出来ない』『買い物、掃除が出来ない』という問題もある。支援者がいない場合などは状況に応じて家事支援サービスの提案をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ランチやサービスで解決するのではなく、見えてきた課題を町の人（区長、班長、困っている人の回り近所）と、どの様に改善していけるのか、話し合いや日々のコミュニケーションをとっていけると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員との連携、関わりを深め、地域高齢者の情報を得る。 前年度に運営推進会議で出た「入浴」「ゴミ捨て」の課題を、今年度の運営推進会議の場を活かして、課題解決に向けた（対応や社会資源）話し合いを行っていく。 ランチ新規訪問一覧表のデータから、地域の方が何に困り何の相談があるのか、事業所内ミーティングで分析する。また、その地域の実情を運営推進会議で地域の方にも報告し、見えてきた課題を一緒に考えていけるような関係性を築いていく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> 事例困難ケースや関わりが難しいケースなど、ケア会議の必要性を検討し、開催できるよう調整工夫する。 民生委員や地域の方からの相談に対して、一緒に考えていけるよう地域の情勢を共有し、必要な時は関係間との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員と地域の情報のやり取りや連携を日ごろから行っている。事前に民生委員に連絡し、情報を得てから自宅訪問することも出来る。また、民生委員からの相談を受け対応もしている。時には、民生委員に同行訪問してもらい、本人の間を取り持ってもらう事もある。民生委員の以外の地域の方、医療関係者とも連携をとり対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例困難ケースに対しては基幹型包括と同行訪問し、一緒に考えて対応している。又、元気はつらつ塾参加している方に対しては、はつらつ塾の事業所職員と連携を図っている。 民生委員改正に合わせて、民生委員定例会議に顔を出し『身近な相談窓口』の周知を行った。また、民生委員の方との同行訪問や情報共有は継続して行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨今の新型コロナウイルスの発生を受け、さまざまな取組みが中止や縮小傾向にある。そういった状況の中、事業所が出来る事や地域の方々の支え合いが重要になってくると思う。元気はつらつ塾の事業所としても、一緒に考えたり出来る事は協力していきたいと考えている。 ボランティア等とのネットワークに関して、はつらつ塾の協力員やサロンサークルのお世話役の方達と繋がっていく事でも、地域の情報が入ってくると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 元気はつらつ塾の協力員や委託事業所、サロンのボランティアの方達と繋がりを持ち、地域の情報を共有していく。 相談に対して即対応できるよう、運営推進会議の場を活かして、地域の情勢を共有したり、課題解決に向けた話し合いを行っていく。状況に応じて必要時は関係者との連携を図る。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員や地域の方から気になる人の情報を得、不安や心配を抱える高齢者に対して必要に応じてサロンや元気はつらつ塾の参加の声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員からはその都度情報を得ている。 相談者の中には、申請まで必要ではないが、不安を訴える高齢者がいる。その場合、元気はつらつ塾の利用となるケースが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護申請まで必要なく、家事支援サービスや元気はつらつ塾の利用で十分に本人の生活を支えられるというケースは多々ある。個々の状態状況を把握し対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員から、早めに相談が入ってくる事は良いことだと思う。チェックリスト訪問など、民生委員以外からも早期の対応が出来ると思う。 元気はつらつ塾の運営側として、ランチとは引き継ぎ4ヶ月に1回のケース進捗会議を実施し、情報共有をおこなっていきたい。また、今後も必要な方へ元気はつらつ塾の情報提供、利用をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 独居の為、認知症が進行してからの相談が多々ある。早期発見の為に、民生委員や元気はつらつ塾協力員および委託事業所、近隣住民などとの情報共有を密に行っていく。
5 地域福祉コーディネート業務について	<ul style="list-style-type: none"> 新規訪問依頼相談に対して、その後の報告を職員間で話し合い、課題は何なのかという事の意見を出し合う。 相談内容に対して介護保険以外の社会資源をも活用できないかという事など必要な助言が出来るよう、社会資源一覧（携帯用）の修正をし完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的にランチの内部ミーティングを行っている。その場では、今関わっている事例を共有している。スタッフ同士が話し合う中で、訪問したスタッフだけでは気づけなかった課題も出てくる。 社会資源のパンフレット等を整理し一覧を皆で手分けし完成させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的にランチ内部ミーティングを行っていた。しかし、後半はシフトの関係上、あまり出来なかった。内部ミーティングだけではなく、話し合える職員でその都度集まり、事例について話し合いをしている。チーム内で報告、情報共有は出来ている。 社会資源のパンフレット一覧は、ファイル等に整理し訪問時に携帯している。宅配弁当や民間の掃除会社などの社会資源についての情報提供を行う事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ランチ内部ミーティングでケースの振り返りを行う事は良い事だと思う。ケースを振り返り、自分達の支援方法の強みや弱みがわかることで、今後の支援方法も改善していくのではないかと。 社会資源のパンフレット一覧は、ファイル等に整理し訪問時に携帯している。宅配弁当や民間の掃除会社などの社会資源についての情報提供を行う事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 限られた職員だけがサロンやサークルに参加するのではなく、職員が交代して参加できるようなシフトを作成する。 ランチ内部ミーティングを定期的に行い、悩んだケースや解決したケースを話し合いをおこなう。個々のケース会議だけでなく、ケースからでた課題を積み上げ、地域課題の分析をしていく。

令和元年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	金明地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホームきんめい
施設管理者	西 邦子
事業責任者	西 邦子
ランチ設置年月	平成29年10月

目指す姿	<p>病院、店がなく不便だが、隣近所の繋がりが強い。お互い助け合いこれまで通りの暮らしが出来る町に！！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8町全てに「集う場」があり、ちょっとした相談が出来る場がある。 ・身近な相談窓口として、地域の中で支援を必要とする人々を把握し生活課題の早期発見に努める。
------	---

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ会議を毎月スタッフ会議の後に開催する。 ・美岬町は町民会館を使用しているが、住民はそれぞれ自宅等で集まっており交流している。住民の状況の把握がなかなか出来ないため区長や民生委員から住民と繋がる方法を確認し、顔見知りになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ会議は毎月行っており、ランチで関わっている方の情報や今取り組んでいる地域型元気はつらつ塾について報告している。 ・美岬町は、チェックリスト訪問で出会った人しか繋がっていない。 ・宮野健康クラブ（宮地町、野田町）は月1回開催している。しかし、中心となり活動している人が継続できるか不安を抱えており、相談に乗っている。今後の在り方について検討が必要と感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ会議をスタッフ会議のあとに行う。昼のミーティング時に必要な情報を伝える。 ・美岬町住民に町でのサークル活動の必要性を聞いたところ、すでに「つどい」や「おしゃべり」の場があり、活動が出来る方はその場に出向いている。出向いていない方は送迎があればいいとの意見があった。その中には、元気はつらつ塾対象となる方もいる。 ・宮野健康クラブは参加住民の希望より月2回開催になり、小塩辻町の高木さんに講師をお願いしている。住民主体で活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮野健康クラブの運営については、老人会が関わっていないので難しい面があると思う。必要な活動なのでぜひ継続していきたい。 ・今まで通り活動については相談にのってほしい。 ・金明地区ランチは、地域によく出かけているし、住民のことはよく知っていると思う。 ・金明地区元気はつらつ塾は是非開校して欲しい。 ・金明地区元気はつらつ塾の対象者はどのような人かわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域型元気はつらつ塾については時期を確認しながら開催に向けて準備委員会を再開する。 ・地域型元気はつらつ塾の対象者については都度丁寧に説明する。 ・宮野健康クラブの運営には絶えず気にかけて継続の為の後方支援を行う。 ・ランチ業務は事業責任者が殆ど訪問に行くため、スタッフの訪問回数が少ない。スタッフにもランチ業務を担ってもらう為初回訪問は2人体制で行う。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も民生委員との意見交換会は年2回開催する。 ・介護予防の為にサークル活動に参加しているが、月3回のために「他に行く所がないか」との声が聞かれる。地域型元気はつらつ塾を検討する。 ・元気な住民の把握にも努め、社会的活動を行っている方のリストを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月12日に民生委員との意見交換を開催した。回を重ねる事でランチの役割を理解されてきている。意見交換の際も心配な方の相談を受けた。また、相談事例を通して、車が手放したことで生活の支障をきたす人が増えてきたという地域課題を共有し、話し合いを行った。 ・地域型元気はつらつ塾の準備委員会のメンバーを選定し区長会で承諾を得た。11月8日に第1回として顔合わせを行う。 ・元気な地域住民のリストは作成していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年11月、民生委員の交代があった。令和2年2月12日民児協定例会に参加し挨拶を行った。今後も意見交換を2回行っていく。 ・金明地区元気はつらつ塾は、今年度スタートの予定で準備委員会を中心に進めていたが、新型コロナウイルス感染防止の為3月の活動は自粛となり参加対象者への訪問は行っていない。活動開始後順次訪問を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金明地区元気はつらつ塾の準備委員会は、今後地区の高齢者支援として地域ケア会議の場となってほしい。 ・今年度は金明地区元気はつらつ塾の立ち上げに向け、地域の方を交えて課題やニーズを話し合うことが出来たと思う。 ・金明地区元気はつらつ塾が立ち上がった後も定期的に地域の方と話し合いが出来たらいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチミーティングで「サークル活動参加の意味」を職員間で話し合い、各々が感じた事を聞き取ってまとめていく。 ・今後金明地区元気はつらつ塾の協力員として活動できる人を把握する意味でも、町ごとに社会的活動を希望する人、活動している人の一覧を作成し、町ごとのファイルの見やすい所に添付する。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した軒下マップから「繋がりが途切れそうな人や場所」について、ランチミーティング（不定期開催）で検討する機会を持つ。（みんなで考える） 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回、スタッフ会議後にランチミーティングを行っている。ランチミーティングでは、個別ケースについて検討をしている。また、スタッフが迷ったり、悩んだりしたときにはその都度相談を受けている。 改善計画に挙げた、軒下マップから「繋がりが途切れそうな人や場所」についての検討機会については、軒下マップが途切れそうなケースをあまり把握できておらず、軒下マップに特化したケース検討は行っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップは作成している。 ・ランチミーティングで検討する事例があまりない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員や福祉協力員が持っている情報も軒下マップに記入してはどうか。 ・1人暮らしの方も増えるのでいろいろな情報は必要だと思う。しかし、聞かれて嫌な方もいると思うので聞き方は考えないといけない。 ・軒下マップはすごい個人情報満載。私だとそんな書かれると嫌です。 ・軒下マップや資源マップの更新を行う事で、利用者ランチや利用者の個々のつながりについても勿論だが、地域全体のつながりやキーとなる人や場が見えてくるので是非更新してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチミーティングで当月訪問した住民の軒下マップを確認し、アプローチが必要な方がいないか話し合う。また、当月のケースだけでなく、過去に訪問したケースについても見直しを行い、軒下マップの更新を行う。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・町担当を決めたので、担当スタッフはサークル活動に参加し「顔見知り」になる。 ・サークルに参加した際町民会館の事務やお世話している人に「心配な人」はいないか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町担当者がサークル活動に参加しやすいように勤務表に町名を記載し、スタッフ全員に周知している。業務に組み込まれているため、担当スタッフにとって参加しやすい体制になっている。塩浜町に参加しているスタッフは名前は覚えられていないが顔は覚えて頂き「あんた」や「きんめいさん」と呼ばれている。相談を受ける時もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリスト訪問や相談者には、地区内で行われているサークルの情報提供を行っている。しかし、殆どの方は知っている。中には町民会館まで歩けない為参加できない方もいる。 ・サークル活動に参加して間もないスタッフはサークルの世話人や町民会館の事務の方に心配な人がいないか聞いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・西さんのことは皆知っているが、たまにサークルで会うスタッフのことは知らないのだから、名札は名前が分かりやすい名札にしてはどうか。 ・スタッフも名前を覚えてもらえるように自分から積極的に話しかけたいと聞けない。 ・町民会館の事務の方と顔見知りになり情報が入ってくる仕組みはいい事なので、スタッフも気にして声掛けを行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区全体を把握する為に民生委員との意見交換を続ける。 ・サークルに参加したスタッフは町民会館の事務やお世話人に「心配な人」がいらないか確認することができる。 ・名札を検討する。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネータ業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源の一覧表を作成する。一覧表には「車イス設置の有無・スロープ設置の有無・トイレの様式等」を記入する。都度更新する。 ・野田町、宮地町の「集まる場」「1人暮らし」「気になる人」などのマッピングを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源の一覧表は作成した。 ・事業所に掲示している金明地区の地図に「チェックリスト訪問」「相談者」「サークル活動参加者」「1人暮らし」等のチェックをしているが、更新出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所町内である野田町と近隣町内の宮地町のマッピングの更新を行いたいと思いつきの行事のあとに計画していた。しかし、新型コロナウイルス感染防止のため行事が中止となり、行えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル以外の「集いの場」を知り早めにつながることで予防になります。 ・社協より地区の地図をもらおうといいよ。 ・町の事は区長さんがよく知っているのでマッピングは区長さんと一緒に行うといいのでは。 ・他地区では防災の為に「1人暮らし」「気になる人」のマッピングをしていると聞いたことがある。地区で行われている見守り座談会に参加し住民とマッピングが出来るといいと思います。 ・全町は難しいので1つずつ焦らずに行ったらいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全町のマッピングを見直す事は難しいので次年度は野田町、宮地町のマッピングを中心に行う。区長や運営推進会議メンバーなど地域住民とともに、運営推進会議後の時間を活用し実施する。 ・他町については、サークルに出向いたときに町の実情について話を聞く機会を設けていく。

令和元年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	橋立地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホームはしたて
施設管理者	田中 直也
事業責任者	山崎 麻子
ランチ設置年月	平成27年9月

目指す姿	<p>遠い親戚より近くの住民～ちょっとし不便かもしれんけど、安心がある町！橋立～</p> <p>●人と人、人と場のつながりが途切れず、途切れている場合は結びなおし、つながっていない場合は新たにつなぎ、更には次世代へつなでいくことで、年齢や障害の有無に関わらず、安心して暮らせる町づくりを地域の人と一緒に取り組みます。</p> <p>●まずは、地域の人に気軽に「ねえ、ねえ、姉ちゃん、兄ちゃん、ちょっと、ちょっと」と相談してもらえ関係づくりを目指します。</p>
------	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<p>・田尻町、片野町の住民が集える場について、民生委員や区長と相談し、町のニーズとしてどのような場があれば良いのか具体的に検討していく。</p>	<p>・田尻町の民生委員から集える場について、老人会が立ち上がって間もないことや、老人会で色々な季節ごとの行事等も行っているため集いの場の検討は今すぐには取り組まなくても良いのではないかと意見があった。仲良し会がなくなって出向く場がない方も増えている一方、チェックリスト訪問や民生委員からの情報では各自で仲の良い数名が一軒の家に集まっていることも知った。片野町については相談の件数が少なく集える場の必要性についても再度確認を行う必要がある。民生委員から話を聞く機会を作りながら検討していく。</p>	<p>・田尻町の集える場作りについて、民生委員と情報を共有しながら町の実情を把握し必要に応じて検討していく事とした。</p> <p>・片野町の集う場の必要性について、民生委員から話を聞く機会を設けた。民生委員は事前に町の要になる方とサロンの立ち上げについて話し合いをしており、継続的に行っていこうと思うと世話役がいなことが課題になるのではという話になったとのことだった。また、片野町の高齢者の中には近所で仲の良い人同士が集まっている現状があることも聴け、他の町のサロンの必要性は低いことがわかった。そのため、片野町の集う場については積極的にアプローチせず、住民からの声が高まった際に協力できることがあれば関与していく事とする。一方で、民生委員としては足腰の弱っている高齢者の出向く場の必要性は感じているとのことで、今後も必要に応じて地域型元気はつらつ塾の情報提供を行っていく。</p>	<p>・片野町以外で、グランドゴルフに参加している高齢者の方が多い。最高齢で88歳。24名の高齢者の参加者がいる中で橋立町の人数は7名程。健康的に体を動かしている高齢者の集まりの場にもなっている。</p> <p>・集う場について、何か目的があって集まると盛り上がりを生み出すのではないかと。集まる場を作る以前に目的を設定することが大切。笑和会（一人暮らしの方対象）や敬老会などの参加率が年々減ってきているので参加率を増やしていけるとよい。</p>	<p>・スタッフ全員が、チェックリスト訪問や相談時に本人の「出来る力」に着目しながら本人の意欲やこれまでの生活歴、背景に配慮し、介護予防の取り組みについて提案できるように、月1回のスタッフミーティングにて事例検討や勉強会を設け取り組んでいく。</p> <p>・地域で行われている高齢者対象の笑和の会（一人暮らしの方対象）や敬老会などは、参加率が年々低くなってきている現状があるが、一方、活動を盛んに行っている所もある。橋立地区にどのような場があるのか運営推進会議で住民の意向を聞き整理をし、民生委員や区長、まちづくり推進協議会とも連携し、ニーズに即した体制を作っていく。</p>
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<p>・事業所内での情報の共有について、今後もスタッフ会議の場を活用しながら全スタッフが地域の課題や状況を理解できるようにする。</p> <p>・運営推進会議の場でもランチの活動報告をしながら町の課題や取り組みについて一緒に考える機会を設ける。</p> <p>・ボランティアについてはかがやき予防塾、認知症ケアパス、そのほか、住民主体で活動している場に出向き顔をつなぎながら情報収集し、必要時適宜に繋げるようにしておく。</p>	<p>・スタッフ間での情報共有は日報やスタッフ会議を利用している。その都度会議では情報の共有を行ったり、ランチ活動の振り返り、申し送り等行っている。</p> <p>・運営推進会議では2ヶ月に1回、実績の報告やどの様な相談があったのか統計表を活用しながら要点を伝え地域の課題に目が向けられるように報告した。また、ランチの活動や大まかな相談内容も報告し、その時々で課題になっていることの検討も行ってきた。地域食堂の周知についてや助言をもらったり、一人暮らし高齢者の見守りについてどのようにしていくとよいか意見交換できた。活動の中でボランティアの周知や住民との顔つなぎ等行ってマッチングすることが出来た。</p>	<p>・スタッフ間での情報共有は日報や業務日誌の活用、月1回のスタッフ会議を通して共有することが出来た。</p> <p>・運営推進会議でもランチの取り組みや活動報告、実績の報告を行い、地域の課題や相談内容について報告出来た。</p> <p>・ボランティアについても、運営推進会議の場で周知を行ったり、かがやき予防塾の卒業生、地域型元気はつらつ塾の協力員、民生委員、ランチのネットワークを利用し声掛け、情報の提供を行った。しかし、直接的にボランティア活動に参加、協力してもらうことが難しかった。</p>	<p>・町のニーズに対しては機会がある事に住民の人たちと密に関わって良い形になるものを作っていけるとよい。いつ、何が必要なのかみんな考えていけるとよい。</p> <p>・運営推進会議の場でランチの現状報告や相談の具体的な件数、項目を示した報告になっているので聞いていてもわかりやすい工夫が出来ている。</p>	<p>・一人暮らしの高齢者の生活状況の把握について、チェックリスト訪問やサークル、サロン、地域型元気はつらつ塾、民生委員の定例会に出向き確認していく。確認できたことや気づいたことなどはミーティング時に他のスタッフとも共有し課題等があれば検討していく。</p>

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	・個別地域ケア会議、地域ケア会議については必要な場合に個人情報に注意しながら適宜行っていく。	・地区見守り座談会に「はしたて生活支援センター」の相談支援専門員と一緒に参加し、障害者に係る地域のニーズを把握することに努めた。また、各町ごとにマップを広げ災害時に気にかけないといけない方の確認を行った。田尻町は世帯数が他の町に比べ多いこともあり、高齢者で気になる方や気にかけないといけない方が多かった。一方、隣町の小塩町は気になる方が数名しかおらず、見守りの体制が多いところに比べると町の民生委員や区長と連携がとりやすいと感じた。小塩町の区長、民生委員、包括と一緒にケア会議を開催し、気になる方への見守りの体制づくりやお互いの役割等について意見交換できる場を作った。地域で暮らす高齢者がどのような課題に直面しているのか地域社会の力を活用するため、地域の方と一緒に課題を共有し検討することが出来た。今後も高齢者が住みやすい地域作りの為に必要な社会資源が何か定期的にケア会議を開催することとなっている。 ・相談支援事業所である「はしたて生活支援センター」と一体的に取り組めるよう民生委員の会合と一緒に参加し、年齢や障害の種別に関わらない地域の身近な相談窓口として周知を図った。	・小塩町の課題について民生委員、区長と話し合いの場を設けることが出来た。小塩町の課題を共有し気になる方への見守りの体制づくりや防災を意識した地域作りへの話し合いが行われている。今後、住民主体での取り組みについて何かできないか検討している。 ・1月に相談支援事業所である「はしたて生活支援センター」と地域の課題の検討等に一体的に取り組めるよう民生委員の定例会と一緒に参加した。年齢や障害の種別に関わらない地域の身近な相談窓口として周知を図った。 また、具体例で「どのような場合に相談していいのかわからない」ということについて意見交換し、民生委員の方々ととの相談窓口としても機能したいことを確認した。 ・スタッフ間ではチェックリスト訪問の回数を重ねるごとに軒下マップ作成が出来たスタッフが増えてきた。過去に作成したことのある方であれば、変化等にも着目し訪問時に見てくる項目の一つとして役立っている。軒下マップからつながりが途切れていることの原因は何か等、スタッフ一人一人の、アセスメント力を身に付ける材料にもなっている。	・自分たちの地区にいつでも相談できる窓口があることはとても助かる。何か困ったことがあってもどこへ相談したらよいかかわからない時に相談できる体制が作られていることはとても良い。 ・介護となると知識などもなく困ってしまうので自分たちにはない知識や情報を教えてもらえるのは助かる。遠くの親戚より、近くのランチ・小規模多機能ホームがあることが重要である。 ・家庭で困っている人が直接相談に行こうと思う人は少ないかも知れないが、民生委員や橋立地区高齢者こころまちセンター、介護施設等の事を知っている人を通して情報を得て行動したりする人もいると思う。これまで通りの地道な活動や情報の発信が大切ではないか。また、相談に応じて民生委員やそのほかの関係者と密に連携しながら困っている人の役に立てるとよい。	・今後も年齢や障害の種別に関わることなく、地域の身近な相談窓口として活動出来るよう、はしたて生活支援センターと一体的に取り組む検討できるものについては検討していく。 ・事業責任者以外のスタッフも、地区見守り座談会や、民生委員の定例会等に定期的に参加できる機会を設け、民生委員や区長と顔の見える関係作りに取り組んでいく。そして、一緒に一人暮らし高齢者や支援が必要な方への見守り体制を構築していく
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	・地域型元気はつらつ塾について、保健推進員にも内容の検討や協力員として参加してもらえないか事業担当者、基幹型包括、健康課等を交えて協議する。 ・民生委員や区長にも地域型元気はつらつ塾がどのような活動の場になっているのか見学に来てもらう。	・地域型元気はつらつ塾の協力員については事業所のサークル等で出会う地域の方に協力をお願いしている。また、協力員さんの方も知り合いの方に協力してもらえぬ方に声をかけている。 ・民生委員や区長の方に地域型元気はつらつ塾の見学をしていただくよう検討していたが日程調整等が難しかったため、今後ははしたての運営推進会議で地域型元気はつらつ塾の紹介を行っていく。	・地域型元気はつらつ塾、地域食堂、サロン、サークル等、地域の中で活動している場所で保健推進委員と協力しながら健康予防作りや生きがい作りが出来ないか検討を行っている。まずは、地区担当と相談しながら地域で活躍している保健推進委員にはどのような方がいるのか、その数や活動内容など把握しながら一緒に地域の活動に参加してもらえないか情報の収集を行っている。 ・地域型元気はつらつ塾の紹介については他の議題を優先したため、運営推進会議で紹介できていない。	・特に意見なし。	・保健推進員と食生活改善推進員とタイアップし、健康作り活動を積極的に進めていけるように交流を重ねていく。 ・事業責任者が保健推進員の会議に参加させてもらい、健康作りや生きがい作りが高齢者の分野でも協同して取り組めないか検討していく。 ・地域型元気はつらつ塾において食生活改善推進員【食改さん】にも参加してもらい、地域型元気はつらつ塾で行っている月1回の食事会にて、高齢者の食事の大切さや食生活のアドバイスなどについて協力してもらえないか検討する。 ・地域型元気はつらつ塾の活動内容について、運営推進会議や民生委員の定例会などを通じて具体的な活動内容や対象者等周知していく。
5 地域福祉コーディネーター業務について	・各町の課題を視覚化し、まちづくり協議会に相談していく為に個別の相談内容から見える町毎の課題を整理する。 ・どの世代の方も楽しいと感じることを切り口にまちづくりの展開に繋がることを検討する。具体的には黒崎町の子どもを持つ親子さんが「地域食堂」を立ち上げたいと考えており、必要に応じた後方支援を行っていく。	・「地域食堂」の立ち上げについて代表の方と、ボランティアの方と一緒に検討会に参加し橋立地区にある社会資源やボランティアに来てくれそうな人、食材を寄付してくれそうな人とのマッチング、紹介等を行った。 ・「地域食堂」について、相談支援専門員として協力できることがないかも一緒に検討した。また、随時、ボランティアの周知、寄付等のアドバイス等を行いながら後方支援を行った。運営推進会議でも地域の住民の方に周知したり、意見を頂いたりし、立ち上げに協力出来た。ボランティアはまだ不足していることもあり、かがやき予防塾の卒業生にも声をかけたりしながら周知している。 ・橋立圏域の資源マップを作成し、相談時等で情報の提供が速やかに行うことが出来るように作成した。また、圏域内にどのような社会資源が存在するのか抽出したことにより、地域の社会資源の分布をスタッフ全体で確認することが出来た。	・「地域食堂」のボランティアに参加してくれる方が少なく、民生委員や地域型元気はつらつ塾の協力員、地域住民等に幅広く声掛けを行った。また、まちづくり協議会、地域食堂のメンバー、ボランティア、子育て支援課が集まり、NPO法人かもママの代表者から他の圏域で行われている地域食堂の運営やボランティア等について意見をもらい今後の参考に役立てた。 ・10月にオープンしたが、人材不足で交流しきれない課題がある。今後どのように地域住民が交流していけるか、随時検討して行っている。 ・地域食堂のボランティアに小規模多機能ホームはしたての利用者とスタッフが一緒に出向き料理の盛り付けをお手伝いした。地域の方で地域の事に貢献できることに喜んでいた。元気な高齢者の活躍の場として活用できた。	・ボランティアに関しては「手助けしたい」という気持ちがあっても活動が継続的なものが多いので健康や体力に不安があるものにとっては、手を挙げにくい。 ・他の町はわからないが、橋立町には元気クラブや、ZIBA工房が機能している。元気な高齢者が集まって活動する姿が見られる。	・まちづくり推進協議会や各サロン、サークル、地域型元気はつらつ塾等の拠点において情報収集し、スタッフミーティング時、定期的に地域資源のマップの見直しを行う。 ・地域の見守り体制の構築のため、地域の集いの場等で、誰がどこでよく集まっているかなどを、地域資源マップを見直しをしていく過程で、地域の方と一緒に地図におとす等、目に見える形で作成していく。 ・まちづくり推進協議会とも必要時意見交換を行い情報の共有を図りながら地区の課題に対して何かしらの取り組みに繋がれるように検討を行っていく。

令和元年度 加賀市ブランチ評価 統括表

ブランチ名	動橋地区高齢者こころまちセンター 動橋ひまわりの家
施設管理者	庄司 美樹子
事業責任者	村上 由花恵
ブランチ設置年月	平成27年9月

目指す姿	地域住民同士が助け合えるまちづくり。 地域住民→動橋地区（ご近所・サークルやサロン仲間・友人・預金講含む）+小規模多機能ひまわりの家 助け合う→互助の精神・持ちつ持たれつ・助け合い組織・自治体や各関係機関の助け合い
------	---

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動へ参加することが定着してきているので、直接の相談だけでなく、地域活動の参加の際などにモニタリングやアセスメントの意識をもち、何気ない会話の中からのヒントや気づき等を、ミーティング等でチームで共有し、アイデアを出しを行う。 経験している職員が中心となり、職員個々が相談を受けてからの対応までを考え提案できる力を養っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> サロンやサークルに参加することは、継続できているが、同じ職員が参加することが多い。何度か参加を続けることで顔見知りの関係は、出来てきており互いに話やすくなっている。 出会った際にモニタリングの機会になることも増えているが、他職員との情報交換や情報の共有など伝達が充分に行うことができず、共通認識で話すことができていない状況であるため、伝達や情報交換の工夫が必要を思われる。 ブランチの活動をミーティングなどで取り上げる機会を意識して作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動への参加は意識して参加できるようになってきているが、参加することが目的になりがちで情報の共有が充分出来なかった。 コロナウイルスの感染拡大防止のため、サロンやサークルの活動が休止となったり、事業所への出入りも規制され、活動の場所がないという声を多く聞いた。個のかかわりだけでなく、改めてやりがいや活動への参加の必要性を感じる機会となっている。 地域交流室（地域予防拠点）建設にあたり、地域の方や推進会議等でも問い合わせがあり、今後どのように活用していくか、地域の方と一緒に検討していくこととなった。 スタッフが1人で相談を受け、提案したり、つなげたり、相談対応できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議でブランチの方と話す機会があり、地域のことを一緒に考えたり、一緒に活動に参加してくれることに感謝している。 身近に相談窓口があることで、相談しやすい。 地域住民が意識しないと・・・と感じることが多い。 地域の役があたると地域のことを考えるようになる。 地区社協や民生委員、福祉協力員と協力できる体制があると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ブランチ責任者交代にあわせて、スタッフ全員と事業責任者と一緒に地域包括システムの理解を深める勉強会をする（年1回）。 勉強会の後、10月までに地域包括ケアシステムの重要性について、地域の方と一緒に考えたり、学んだりする機会ができるよう計画作成し、計画に沿って実行する。 民生委員及び地区社会福祉協議会とブランチのつながりが強いので、この関係から地域ケア会議を開催する。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> 各町へ出向く機会を意識して増やし、事業所職員が地域を理解することや、実態を把握できるようにする。 また、民生委員の方や地域でつながりある方々との関係を生かし、各町の情報を収集しまとめ、分析につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 動橋町以外の町へ出向くことが少ない状況が変わらず、年度初めの総会への参加も出来なかった。 民生委員の方々との関係をいかして、各町の情報収集することは続けてできており、民生委員定例会や推進会議にて各町の情報を収集し、新規相談者リストと合わせて分析し、業務を決めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業責任者が中心となり、チェックリスト訪問を中心訪問できた。事業所へ戻ってからも情報交換するなど、ブランチとかかわった方々のことが事業所内で共有されることが多くなった。 情報交換や伝達を意識して行ったことで把握はできるようになってきているが、情報をもとに分析するまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員交代もあり、今後も連携できると良い。協力願いたい。 自分達も自分の住んでいる地区はわかるが、他の町はわからない。交流ない人も多いのでは？ 各区長が1年交代であるため、伝達できていない時がある。また、ブランチ（事業所）のことを知らないという人もいるだろう。 地区会館で様々な活動をしているので、活用してもらえたら良い。動橋町民会館も同様。 	<ul style="list-style-type: none"> 町ごとに担当のスタッフを決め、各町（訪問、サークルなど）へ出向き、町の情報や風習、社会資源など情報を得る。得た情報は町ごとのノートに記載する。 相談のデータをまとめ、スタッフ間で地区の特徴を共有する。データの結果を地域ケア会議で町の人へ報告し、ニーズの把握をする。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> 軒下マップからのつながりを意識して作成することを続け、作成した軒下マップのつながりについて実践事例を職員で確認する機会を作りアイデア出しを行う。 出し合ったアイデアをもとに、まちづくり協議会の方と話し合う機会をもち、地区単位の地域ケア会議開催に向けて一緒に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内でブロック連絡会の復命や事例検討を行うことができず、支援のアイデア出しまではつながりなかった。 4月地区社協の方や地区会館の方との話し合いができ、互いの思いや考えなど状況確認する機会となった。 その場で出た意見から、地域ケア会議での検討議題として話すこともできた。 地区単位での地域ケア会議開催に向けて具体的に対策等を考えて進められると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の繋がりを意識して関わることや、軒下マップの作成が習慣化されている。顔が分かる関係になり声かけも増えた。 個々のケースから地域ケア会議につなげることは出来ず、そのような事例もなかったが、地域への転換する発想が不足しているのでは？との意見もあり、ケースに対してのアセスメント力、視点を身につける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人個人の関わりだが、軒下マップを見ると、同じ人（お世話気さんや友人）重なっていることも多いと思う。 地域の活動に参加されない方もいるので、訪問してもらえると把握できて良い。 地区の人間関係もあるので、簡単になんでもできない。 	<ul style="list-style-type: none"> 軒下マップのスタッフ間での理解、活用をしていくために、まず、小規模の利用者のサービス担当者会議の場面で、必ず軒下マップを活用して、本人の暮らしの支援を考える習慣にする。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> サークルやサロン・住民主体の活動に職員が参加することができるよう、年間・月間計画を立て計画的に実施していく。 活動に参加されている方々の名前と顔が一致するようにし、また顔見しりになることのできた方々と、情報交換ができる関係を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> 元気はつらつ塾の参加や、地区社協の方々とのつながりから、地域ケア会議への参加を依頼し、推進会議にて地区の課題についても話す機会が出来た。また、メンバーも新たに加わっていただき、一緒に考えていただく人が増えた。 顔見知りになることが出来た後の関係継続や役割などを具体的に計画できるようにしていく。また、介護予防教室の開催を地域のニーズに合わせて開催できるようにする。 年間計画は立て、計画にそってできた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員一人一人が一人ずつ関りを広げたり、深めたりと意識して取り組めるようになってきているが、名前を覚えていないことが多いので、集合写真など活用し名前が分かるように工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> サロンやサークルで職員の方によく、会うようになった。職員もよく来てくれるようになった。 今年サークルの世話役となり、色々情報交換したり、相談できるしよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 各町（訪問、サークルなど）へ出向いて得た社会資源情報（魅力、自主サークル活動等）を地区広報に掲載し、高齢者へ情報が届くようにする。
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> 動橋地区の個々のニーズから地域のニーズを把握し地域住民と相談しながら、地区の地域ケア会議開催に向けて取り組む。 地域ケア会議の開催に向けて情報を整理し、各機関が各々の取り組むことを明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の相談を受け対応することが精一杯で、地域のニーズの分析まで出来ていない。個々の課題を明確にしたうえで、新規相談者リストと合わせて分析し、地域のニーズ把握に努めたい。 5・6月と動橋地区の座談会に出席し、ブランチの紹介もできたことで、直接の相談を受ける事例もあり周知につながっていることを実感できている。 地区社協一員にもなり、継続し地区の一員として何の役割を担っていくか地域住民と一緒に検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会資源をまとめてファイリングしたことで、情報をスタッフで共有するなど活用されているが、資源マップは掲示されているのみで、更新や情報交換ができず活用できていない。 また、地域ケア会議以外に地域住民と一緒に考える機会がなく、いつも同じメンバーでの話し合いになり、意見が偏りがちになるため、他で意見交換ができる場を設けることが必要。 福祉協力員との勉強会を今後も継続し活用できると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 男性が参加できる活動があると良いと思うが、中心になる方がいない。 あったら良いと思う事があっても実際にやるとなると難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の方と地区の社会資源について情報交換をする機会をもつ（小規模運営推進会議や地域交流室の活用など）。 情報を日報に記載し、資源マップに追記し新しく、更新する。

令和元年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	分校地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホームいらっせ分校
施設管理者	村井 英樹
事業責任者	内村 好美
ランチ設置年月	平成29年10月

目指す姿	いつでも気軽に相談できる町
------	---------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	・今後も地域に出向いていき周知に努めることで早期の出会いに繋がるよう努める。	・毎月の分校町いきいきサロンへの参加や地域交流会を行うことでランチの周知や地域として気にな方の情報収集を行った。 ・分校小学校、清心保育園との交流会も行うことができ、児童、園児、家族、教員等に知ってもらえることができたと思われる。 ・事業所の祭り開催、町の祭り参加、各会合にも声を掛けてもらえるようになり町民への周知にも繋がっていると思われる。 ・分校町以外の町（高塚、打越、箱宮）のサロンには出向けてないので出向くよう努める。	・分校町以外のサロンに出向く目標を立てたが出来ていない。 ・分校町いきいきサロンへの参加、地域交流会は継続して行っており周知や情報収集に努めている。 ・事業所で1月、12月、に開催した園児、児童向けの行事ではその親も巻き込むことで、若い世代の住民にもランチの周知することが出来た。	・若い人はまだ知らないと思う。 ・区長事務所とこれまで以上に繋がりを持って、そこから町に繋がるルートができたならもっと知ってもらえるのではないかと。 ・公民館の事務員とも繋がっていけば良いと思います。	・区長事務所や公民館の事務員に出向き、若い世代からみた高齢者の課題をリサーチする。 ・地区広報などにランチの活動の周知をす（具体的な事例紹介や、地域の魅力など掲載する）
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	・地区の軒下マップを作成し社会資源の見え方を図り地域の社会資源を知る。	・社会資源については、地域ケア会議（運営推進会議と兼ねている）やサロン、民生委員等定例会等で地域の方から教えてもらうことで把握に努めている。 ・地区の社会資源の軒下マップを作成し職員の目に入り易い場所に掲示し全職員が把握できるよう努めている。 ・新しい社会資源はその都度追記している。	・地区の社会資源マップは新たな情報があれば書き加えているが、情報を得てくるのは特定の職員数人で全職員が社会資源の把握について意識して行っていない。 ・相談の中で、ゴミ出しの問題や男性のサロンやサークルの参加が少ないことが把握できた。	・男性を対象としたり、男性でも参加しやすいサークルを立ち上げようとは思っているがなかなかできていないのが現状。 ・男の料理教室等ができないかと考えています。声かけはしていきます。	・町の情報から地域のニーズや社会資源の整理分類する。 ・相談からのデータを地域ケア会議で伝え、住民とともに意見交換し、地域のニーズや課題を把握し、取り組む。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	・本人、家族に民生委員に情報提供しても良いか確認し、同意を得られれば各民生委員に情報提供を行いネットワークを構築していきたい。	・民生委員からの情報提供の依頼で、本人・家族から同意を得られた方で情報提供に繋がった事例が数件あり民生委員とのネットワークの構築の足がかりになったと思われる。 ・今後も研修会や勉強会等を通し民生委員以外の機関や専門職とのネットワーク構築に努めたい。	・分校町の区長をはじめとした役員や民生委員との情報共有については必要に応じて共有できている。 ・民生委員、各区長が改選されたので新しく就かれた方もネットワーク構築に取り組んでいく。 ・他介護事業者や医療機関とのネットワーク構築についてはまだ不十分と思われるので関係作りを努めていきたい。	・医療機関との連携は、研修会やケース会議等で関わると医師は信頼してくれるようになりネットワーク構築に繋がると思います。	・ミーティングで軒下マップの勉強会を年に2回する。 ・まずは、小規模利用者のサービス担当者会議で軒下マップをか使って考える。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	・地域のサロンや交流会参加を定期的に行い困りごとの把握や分校ランチの更なる周知のための活動を行っていく。	・地域の相談窓口があることへの周知活動は地域ケア会議（運営推進会議）やサロン、町内行事への参加等で周知は広まっていると思われる。 ・分校町以外の町や公民館のスケジュールを把握できていないことが多く今後は積極的に把握に努めていく。 ・これからは周知の次の段階として得た情報をまとめる。	・分校町のサロンには定期的に参加し、地域交流会も毎月開催していて、ある程度の周知は行っていると思われる。 ・「周知の次の段階の活動」についてはまだ取り組みが出来ていない。 ・分校町以外の町では地域の介護相談の窓口としての機能があることは分校町以外の町ではまだ知られてないと感じることがあるので周知活動を続けていく。	・これからも各町会やサロンとの関わりを持って行ってほしい。	・分校町以外の行事やサロンへの参加ができるよう各町のサロンなどの日時を確認し、職員が参加する。参加することで、その町のお店、世話焼きさん、町としての困りごと等の情報を得る。参加したら、日報（ノート）に記載する。
5 地域福祉コーディネーター業務について	・分校地区ならではの困りごと等の把握にも努めていきたい。病院や医師からも相談してもらえるようランチ業務や活動の周知を図っていききたい。	・相談があった時には情報提供ができていた。病院、訪問看護事業所からの相談もあり周知が広がっていると思われた。だが、社会資源の情報提供や今後の方針等の助言・提案が遅れたケースがあったので社会資源や各機関との連携をスムーズにしていききたい。	・この一年の活動で、分校地区ならではの困り事（ゴミ出し、男性の参加し易いサークルが無い、等）を把握することができたので、今後の地域福祉コーディネーター業務に活かしていきたい。	・今年度の活動を通して、「サークルに男性の参加が少ない」「公民館まで歩いて行くことが出来ず、サークルに参加できない」などの声や実態から、活動の場参加の場として、地域型元気はつらつ塾のような取り組みも考えてみてはどうか。	・地域型はつらつ塾の立ち上げについて、地区データや相談事例から実態をまとめ、地域ケア会議に諮り意見をもらう。その上で、立ち上げについて、地域と計画する。

令和元年度 加賀市ブランチ評価 統括表

ブランチ名	作見地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホームいらっせ松が丘
施設管理者	村上 弘樹
事業責任者	小林 美紀
ブランチ設置年月	平成28年9月

目指す姿	住み慣れた地域で安心して暮らせるように 「助け合える関係性・自分自身の健康づくり・場所とのつながり」を作り 「一人一人がつながり、もしもの時にも備えておける地域」となる
------	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	・松が丘おたっしや会、松が丘いきいきサロン、やおき健康クラブに月に1回は参加し、顔見知りになり気軽に話せる関係になるように努める。	・松が丘おたっしや会は毎月参加し、会長や参加者と顔見知りになってきている。松が丘いきいきサロンとやおき健康クラブは月に1回の参加はできていないが、おたっしや会の代表からは、気になる方の情報を頂いている。	・松が丘おたっしや会には毎月参加を継続できた。松が丘いきいきサロンとやおき健康クラブにもほぼ月1回参加できた。 ・参加者から気になる方の情報が入ってくるようになった。 ・松が丘に新しいサロンができ、その代表者と今後も協力していこうと話す事ができた。 ・3月は新型コロナウイルスの影響でサロン等への参加は出来なかった。	・地域との関係作りは小規模業務とブランチ業務は同じです。 ・1人のケースからつながりを広げていくというので良いと思う。	・当日のブランチ活動の内容を夕方と翌日の朝のミーティングで説明する。職員の連絡ノートにも記載し、職員間で共有する。 ・サロンへの定期的な参加を続ける。そのためにサロンに行く日や職員をシフトに組み込む。 ・作見地区の広報に年に1回ブランチ活動の具体的な紹介を載せてもらう。(さくみブランチと協力して)
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	・各サロンへの参加時に利用者との会話の中から、町の情報をキャッチし、それを記録していく。(その記録の中に地区の資源が含まれているかもしれない。)	・気になる方の情報や、サロンに来なくなった方の情報等を頂くが、気軽に町の情報を話してもらえそうな関係になっていない。 ・今年度の相談を集計して、どのような方からどんな内容の相談が多いか、世帯の区分や病気の内容なども含めて分析し、この地区の相談の傾向を地域ケア会議で報告した。	・サロンに参加を続けたが、特定の人物以外は気軽に話せる関係になっていない。 ・時折、気になる方の情報が入るようになった。 ・地区の課題を作見ブランチと合同で3回話し合ったが、コロナウイルスの影響で地区にその課題を返せなかった。	・サロンに定期的に行くにはシフトに組み込むしかないのでは？空いた時に行くでは違う事に時間を使ってしまうと思う。この日のこのサロンにはこの職員が行くというように決めておけばよい。	・地区のサロンに参加した時に世話焼きさんの情報を得る。 ・サロンやサークルへ顔を出した時に、会館に掲示してあるチラシから町の情報を得る。また、そのチラシを集める。チラシの内容をきっかけに、地域の方と話をし、町の情報を得る。 ・サロン毎に記録するノートを作成する。そのノートのどのような内容を記録するか項目を整理する。そのノートを年に2回確認する。 ・相談内容の分析を継続し、年に1回地域ケア会議で住民に報告し、意見をもらう。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク(地域社会との連携及び専門職との連携)構築の方針	・地区のボランティア活動を行っている個人や団体を調べる。その際、作見地区のまちづくり推進協議会や区長会に参加してもらい情報を得る。 ・軒下マップによく出てくる資源(世話好きさんなど)を調べる。これらの方々と顔見知りになる。	・事業所にボランティアに来てくれる方から他に活動をしている人がいないか確認した。 ・まちづくり推進協議会や区長会には参加できていない。 ・軒下マップの確認はできていない。	・事業所の行事の時に参加してくれるボランティアの方が3名登録した。	・つながりがつながりを呼ぶ。今は民生委員とつながっているの、民生委員からの紹介でつなげてもらったり、その人が近所の人に何かあったらブランチに行けばいいと思うようになるので、そのようにつながっていけばいい。 ・軒下マップの理解は重点的にやってほしい。	・事業所に来てくれる3名のボランティアからこの地区のボランティア団体の情報を得る。 ・年に2回、軒下マップの意味や必要性の理解を広げるために、まずは、小規模の利用者のケースで事例検討を行う。その際、中堅研修を修了した職員が中心になって行う。 ・軒下マップ(目的、活かし方など)の勉強会を行う。
4 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針	・管理者以外の職員も地区のサロンに行けるようにサロンごとの担当を決める。 ・月に1回は各サロンに参加する。各サロンでどのような事を行っているのか把握する。 ・職員にはサロンに参加する意味を説明する。	・サロンごとの担当を決めた。職員にはサロンに参加する意味を説明した。 ・おたっしや会には、最初は管理者と一緒に参加し顔合わせをした。 ・いきいきサロンとやおき健康クラブには、職員の参加はできていない。	・やおき健康クラブにも管理者以外の職員が参加した。 ・おたっしや会とやおき健康クラブの活動内容は理解できたと思う。 ・いきいきサロンには管理者以外の職員の参加は出来なかった。	・おたっしや会だけでなく、作見地区元気はつらつ塾もあるので、そこのつながりも必要ではないか。	・中堅研修修了者は、おたっしや会、松が丘いきいきサロン、やおき健康クラブ、ふれあいいきいきサロン、作見地区元気はつらつ塾に月に1回は参加し、どのような事を行っているか理解し、相談時に説明できるようにする。 ・参加できていない職員には、事業所内の勉強会でサロンの内容を説明する。
5 地域福祉コーディネーター業務について	・地域資源マップは、さくみブランチと協力して地区として作成し、その後は随時追加していく。(継続) ・世話焼きさんの情報も追加していく。	・地域資源マップのさくみブランチとの合同での追加はできていない。	・地域資源マップは作成できたが、その後の情報の更新追加ができていない。地区の世話焼きさんも見つけられていない。	・情報を集めるのは皆さんが集めるのではなく、ケアマネとか知っている人に聞く方が良い。 ・お店には行って何が出来るか聞いてみないといけなけれど。無理をしない計画にした方が良い。 ・これらの改善計画の1つとかできそうな事からのチャレンジが良い。昨年と比べるとできていないが増えているがこれは、意識が高まったという事だと思う。	・さくみブランチと協力して、作見地区の資源マップを半年に1回更新する。新しい資源が見つければ、随時付け加えていく。

令和元年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	作見地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ハウスさくみ
施設管理者	横倉 ゆか
事業責任者	山口 紀久代
ランチ設置年月	平成28年度10月

目指す姿	「一人一人がつながり もしもの時にも備えておける地区」
------	-----------------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> 各町の担当が毎月1か所はどこかのサークル・サロンへ参加する事を継続していく。 年度初めにランチ業務に関わる年間予定実行表を作成する。 まちのサークル・サロンだけではなく、地区内で行っている趣味、スポーツクラブの方にさらなる活動場の情報提供を行っていくと共に、職員の知識向上の為に情報提供の内部研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間予定を作成し、計画に沿って行っている。サークル・サロンへの参加では今年度からサークル活動をしなくなった町や当日の事業所の人員調整が出来ず参加出来なかった月があった。 地区内で行われている、卓球クラブの方々にかがやき予防塾、家事支援サポーター養成講座への案内をおこなった。卓球クラブの中にはかがやき予防塾をすでに受講し、修了生として活躍されている方もいらした。 内部研修では「こころまちセンターについて」「チェックリスト訪問について」など、ランチ業務の基礎を改めてみんなで勉強する機会を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間予定表に沿って、毎月1回サークル・サロンへの参加を行った。冬場は、開催休止になり参加できないこともあった。また、日程が合わず参加出来ない時は、参加する町を変更するなど工夫した。 趣味やスポーツクラブへの顔出しは行えず、情報提供は出来ていない。 事業所内では研修まではいかないがカンファレンス等で行政が行っている研修や制度、支援事業やボランティアについて話し合い、知識を深めていった。 	<ul style="list-style-type: none"> サークル、サロン、他の活動の場に参加することは、高齢者もランチ職員もお互いに顔見知りになることで話しやすくなる（相談や情報交換がしやすくなる）為、続けていきたい。 サークルやサロン等に参加する予定を立てていても、相手の都合（サークルの終了や休み）で参加出来ない時もあるが、違うサークルや老人会に行くなど臨機応変に対応していければ良いと思う。 サークルやサロンがない町の高齢者とはどのようにかかわっていくのかは課題だと思う。 サークルが終了する理由には後継者の問題が多い。存続しているサークルの中でも、後継者問題はあつ。老人会はどの町にもある。老人会の行事や、見守り座談会、一人暮らし支援の場などで周知活動を継続していくのも大事なのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 町のサークル・サロンへの参加は継続する。参加した際に各町の特性や良い点、不便な点をお聞きし、課題を拾い上げていく。 市が実施している健幸ポイント、ボランティアポイントを町のサークル等に説明し、生活習慣病予防、健康の維持や介護予防のひとつとして活用してもらう。そのために内部研修で内容を理解していく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> サークル・サロンに参加した際は1つ以上は地域の情報等を得て、サークル・サロンノートに記入する。 今期、相談内容から項目を分け、課題整理をしていく。課題整理の為に表を作ってみる。 サークル・サロン、相談に行った際は素早い情報共有を図るために朝礼にて口頭でも伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> サークル・サロンに行った際は情報収集を積極的に行っている。その際、交通手段がないなどの声が聞かれる。一方で1、2回しか行っていない職員は会話するための話題自体が難しく、関係づくりや場に慣れるところから始めている。 サークル・サロン・相談後は朝礼にて報告を行っているが勤務状況によって報告を聞けないこともある。相談内容は書面にして、申し送りノートに挟み、見える化することで職員がより共有できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 市役所包括職員と今年度半年分の相談票の主訴をもとに課題整理を行った。いらっせ松が丘の課題と共に作見地区の課題としてまとめる作業をした。 町の方と関係が出来ている職員は町の事や気になる方など情報を聞くことが出来ている。 サークル、サロンに参加時のノートへの感想や情報の記入は継続している。 	<ul style="list-style-type: none"> サークル、サロンでは、情報提供をしたり、話を聞いたりしているが、聞いた話などは上手く共有できている。 記入したノートを回覧し、確認のサインをすることで共有しているならそれで良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談を共有するために相談票をミーティングノートに挟んでいたが、相談票を共有した際に面接に行っていない職員が疑問に思ったことなどを書き込んでもらう。訪問後、職員にフィードバックする機会として、月1回のミーティングで事例の共有及び検討をする。 相談集計からまとめた課題について、今後地区にどのように伝えていくか、同じ作見地区ランチのいらっせ松が丘と包括職員とで検討し、実施する。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が訪問に行ける体制を取り、軒下マップの作成も行っていく。 チェックリスト訪問から関わりを始め、訪問していき、経験を積んでいく。 軒下マップの活用についての内部研修をおこなっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員をチェックリスト訪問の担当に振り分けた。訪問することに慣れていない職員にアドバイス票をもとに訪問することで意図した会話を学んでいってもらっている。 チェックリスト訪問後に訪問した職員が軒下マップ等を記入することで、アセスメントの時間になっている。（朝礼時、復命、共有作業を今後していく。） 11月には軒下マップの活用についての内部研修を行う予定。 	<ul style="list-style-type: none"> チェックリスト訪問は継続して行っている。当日の勤務体制、小規模の業務状況に応じて、チェックリスト訪問の担当者を2名決め、訪問とアセスメントを行った。 11月に行う予定だった軒下マップの内部研修は法人研修：成年後見制度についての変更となる。ランチで関わっている方を事例にし、制度や社会資源の活用などの学びとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ランチの主担当の職員だけではなく、他の職員も誰もが同じように相談等の対応が出来ることを目指してこの1年頑張ってきたのだろうということは伝わった。 主担当の職員が不在の時の相談対応はどのようになっているか、相談側としては心配がある。小規模との掛け持ちで大変だが、情報等の共通理解は出来ているか。 民生委員や区長、見守り座談会等に顔を出し、関係を作っていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規民生委員の方々や各町の老人会の方々に顔を覚えてもらい、関係を築いていく。具体的には、地域ケア会議（運営推進会議に兼ねる）に職員が順番に参加し、参加される民生委員の方々と顔合わせしていく。 ランチさくみの軒下マップを職員で作成し、自分たちがかかわっている場所、人を見える化する。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> 各町に担当職員の顔を覚えてもらえるようにサークル・サロンの参加を継続して行う。 作見地区元気はつらつ塾に参加したことのない職員を参加させる。 年間計画を立て、サークル・サロン・はつらつ塾に職員全員が定期的に行く。 ブロック連絡会の事例検討、ランチ勉強会や内部・外部研修に参加し、職員のスキルアップを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月どこかの町のサークル・サロンに参加させて頂いているが、半年に1回程度のペースの為、ランチとして認識を持ってもらえる人はいるが、顔を覚えてもらうことは難しいところがある。 作見地区元気はつらつ塾に毎月参加させてもらい、元気はつらつ塾の内容や雰囲気を感じ、ご利用している方々、職員、協力員と顔見知りになる努力をしている。内部や外部研修を通し、介護相談に必要な知識や情報を共有したり、職員のスキルアップに努めている。外部研修後、参加者の復命や報告書を読むなど職員で共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に沿って、サークル・サロンには参加したが冬場の開催でサークル自体が休みだったため、参加ができなかった場所もあった。 はつらつ塾はランチにかかわる職員が全員参加出来た。 事例検討の参加は連絡会、勉強会を含め、少人数の参加だった。内・外部の研修にはほとんどの職員が参加出来ていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模の業務が忙しい場合、時間が合わずランチ業務にかかわれない職員も出てくるだろう。ランチの主担当の職員と他の職員とで経験値に差が出たり、ランチ業務にかかわる職員の中で個人差が出てくるのは仕方がない。経験していく中で少しずつスキルアップしていくと思う。 『顔を覚えてもらうことは難しい』とあるが、気にすることは無いと思う。色々な場に顔を出して会う回数を重ねていけば良い。また職員みんなが、顔を出すことに慣れていこうと経験を積み重ねていくことが大事。 安心して相談が出来るように、同じ職員に長く勤務して欲しい。 元気はつらつ塾に参加している方がはつらつ塾を通して段々と表情に活気が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 初回・継続相談の際やサークルや周知活動の際に「作見地区高齢者こころまちセンターさくみ」として、ご本人やご相談者が気軽に安心して相談できるよう面接技術を生かして対応する。 周知活動に行ったことがない地区のクラブ活動の場を調べ、ランチの周知活動を行っていく。 サークルとの関係力を高めるため、今年度も全職員が年間計画に沿って参加し、地域情報やニーズを把握する。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報をランチ、小規模と共に活用できるよう見やすく地図を作成していく。 ・社会資源の情報収集は継続して行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員で協力し合い、作見地区の地図を作成した。地図にどういう情報を添付していくか、どういう情報が地区内で活用しやすいかを模索中である。社会資源の情報収集はサークル・サロン等の参加や訪問、小規模業務等を通し継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図上の公共施設等の名称をシールにして貼り確認をしあった。相談やサークル等にて情報を聞いていたが、共有がうまくできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『軒下マップ』『社会資源』『チェックリスト』など言葉として分からない。 ・ランチ業務で取り組んでいる軒下マップの作成や社会資源の収集・整理などは、きっと小規模の業務でも同じように役立つと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源マップを活用しやすくするために、地図内に項目別に色分けしたシールを貼っていく。 ・書面化した情報をより活用しやすいように、さらに情報を聞いた際に更新しやすいように項目別にファイリングしていく。 ・ランチさくみとして繋がりある方（見える化した軒下マップ）との関係が途切れないように集まりの場にランチさくみとして今後も出向いていく。

令和元年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	山中地区高齢者こころまちセンター 富士見通りお茶の間さろん
施設管理者	小森 香苗
事業責任者	小森 香苗
ランチ設置年月	平成27年9月

目指す姿	『地域に住んでいる誰もが気楽に話し合える仲間やホッとできる居場所がある』
------	--------------------------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	・地域ニーズの把握や地域の方の情報交換の場も目的の一部としてスタートした集いであったが高齢者の役割を考えた時に担ってもらえることはあると思われるので再度今後の集いのあり方について参加者と話し合いを行っていく。初期相談の対応する職員は増やしたものの一連の流れについては事例を交えて学んでいく。	・集いに関しては集まった地域の方との意見交換の中で今後についても話も行うことができた。他のサークルには参加していない方ばかりで唯一の場所だという意見が多く、自主的にという方は今の所おられなかった。 ・住民主体であるというこの理解と運営について参加者みんなで考える機会を作る。 ・初期相談に対応する職員に関しては基幹型との同行訪問を行った後に今までの違いを話し合いを行った。今後も継続して職員同士情報交換を行っていく。	・ランチに携わる職員誰もが初回訪問後に職員同士で話し合う機会が以前より増えた。ほかの職員からの意見や以前の事例を通して提案を出し合うことで全員で考えることを今後も続けていきたい。それを続けることで介護申請以外の手段が見えてくるのが分かった。 ・集いに関しては感染予防のため延期中であり、再開後より今後の在り方について参加者中心で検討していくこととする。	・ランチの役割として地域向けの教室などを開催していると知った。介護相談等たくさんの方の地域のためにしていることは大変だと思う。職員が主導的ではなく住民一人一人が自分自身のために意識して取り組めることをしていくにはどうしていくことがよいか？地域の人との話し合いは必要だと思う。	・ランチが中心にしている集いを地域住民の力を借りて、継続できるように支援する。参加者の思いや現状を把握し、地域ケア会議で意見をもらう。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	・地域ニーズの移動手段の課題については地域ケア会議の課題として挙げ、今後どのようなことから始めて話し合いを重ねれば良いのか助言をもらいながら形のある物にしていきたい。	・高所の住宅の方が階段を降りることが難しくなったという相談が何件か有り、移動手段の模索と共に軒下マップから間接支援や互助の関係について考える必要がある。地域ケア会議でも事例をあげたが具体的な話し合いには繋がらなかった。	・しゃくなげカフェ以外のサークル等への参加が未だできておらず雰囲気や活動内容を知り、相談時に具体的に伝える事が出来るよう今後積極的に進めていきたい。 ・しゃくなげカフェへ参加する職員を固定しない工夫を今後も継続していきたい。	・地域の人と話をするという事は、出向いて交流を持つ事だけではなく、日頃の近所づきあいや地域ケア会議でも私たちと意見を交わすことも必要な事と思う。仕事の中でいろんな機会を活かすことをもう少し考えてみてほしい。	・相談表のデータをまとめて、職員間で課題を確認する。確認した課題を地域ケア会議で報告して、意見をいただく。 ・全職員が各町のサロン・サークル等に行き、雰囲気や活動内容、どのような人がいるかを知り、ランチ報告書に情報を記載する。(1人1回以上)
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	・居宅との圏域会議や地域の各機関とのネットワークは絶やさず継続していく。また新たに地区社協やゆざや等、情報を教えてもらえる機関と繋がっていくことに努める。	・事業責任者が変わったことで、居宅との圏域会議や地域資源の参加を積極的に行う中で私達側もどのような資源がありどんな活動をしているのかを知ること、顔を覚えてもらうことで情報交換ができるつながりをつくるのがまず必要である。そこから軒下マップの資源が増え、連携しながら地域全体を支えるネットワーク作りを目指していきたい。	・地域の商店の方が来所され、気になる地域の方の情報提供があった。挨拶や声掛けひとつから少しずつではあるが顔を覚えて頂けるようになってきた。 ・地域ケア会議には決まった職員の参加となってしまう、今後は参加する職員を固定せずに、記録を読むだけではなく参加することで知り得る地域課題の意見交換の場を職員全員で共有できるよう工夫する。 ・居宅との圏域会議を継続することで、お互いに情報交換しやすい関係作りを行っていく。	・今は自粛している状況だが、ランチは地域の行事などによく参加していると思う。自分たちもお祭りの付き添いなど協力できることがあるので声をかけてほしい。	・軒下マップの活用をしていくため、ランチで関わった事例の軒下マップから社会資源の繋がりを活かすための事例検討をする。(1件) ・地域ケア会議に職員がローテーションを組んで参加し、地域との繋がりを作る。また、職員各々の視点で地域課題を捉え、把握したことをランチの報告書に記載する。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	・安易に介護保険サービスに繋ぐのではなくどのような生活を送りたいのか意向の確認を行い、地域資源を紹介していく。紹介するにあたり今まで同様サークルに出向いたり利用者や見学の機会をもつ等してサークルの雰囲気や特徴を捉えていく。	・まず私達がどのような資源があるかなどについて地域の事をもっと知ろうとする動きが必要である。しゃくなげカフェの参加だけにとどまらず活動の紹介を行っていく。また西谷、東谷の周知については不十分であり、地域ケア会議等で活動の集まりの情報を得て出向いていきたい。	・しゃくなげカフェ以外の地域のサロン・サークルの参加に至らなかった。 ・ランチの職員として未だ地域性等掴めていない西谷、東谷地区への活動ができないままであった。相談のきっかけとしての連絡が直接入ることにはあっても、個人の相談としての繋がりはなくそこから見える実際の地域の課題や特性を知るために出向く必要がある。	・しゃくなげカフェではたくさんの方と職員さんや利用者さんが交流できている。周知されていると思う。	・西谷・東谷のサロン・サークルに行き、「山中地区高齢者こころまちセンター」の紹介を行い、相談しやすい関係をつくる。 ・出向いた地域で地域の特徴を知るために、町の行事や習慣を参加者から聞き、町ごとに記録を残す。 ・ゆざややまちづくり推進協議会と繋がりを作るために地域ケア会議への参加をお願いする。
5 地域福祉コーディネーター業務について	・事例検討を通して軒下マップの活用を行いコーディネート業務や間接支援について学んで行く。地域資源の把握のためにサークル一覧表の作成を行っていく。 ・ランチが主に作成するのではなく、情報の書き込みをゆざややまちづくり推進協議会にお願いし公的なサークルは記入してもらう。また個人の方にもお願いすることでより詳細が分かる。	・情報の書き込みなどについては活動する事ができなかったが、地域にどんなものがあるかについてマップにし、集いの中で参加者の方にマップ記入や情報交換を行うことができた。	・資源マップは地域の資源を知り、地域に繋げるための情報作成であることを職員個々が把握したうえで作成する必要がある。今一度職員全員で目的を共有し全員で取り組めるような工夫を考えていく。 ・資源マップ作成を進める中で災害時に使えるような資源を加えることが勉強会で他ランチとの意見交換時に学ぶことができた。	・災害などでは地域も協力して助け合わなければならないため、災害訓練などは協力してやっていこうと思う。もっと近所の人にも声掛けしてみようか。	・資源マップの情報が誰が見ても活用できるよう11月までに職員で話し合い、内容の整理をする。また、追記や確認がしやすい場所へ配置する。 ・3月頃に、サロン・サークルや初期訪問で集めた情報を資源マップに追記する。 ・整理できた資源マップを地域ケア会議で参加者に見てもらい、情報を教えてもらう。

